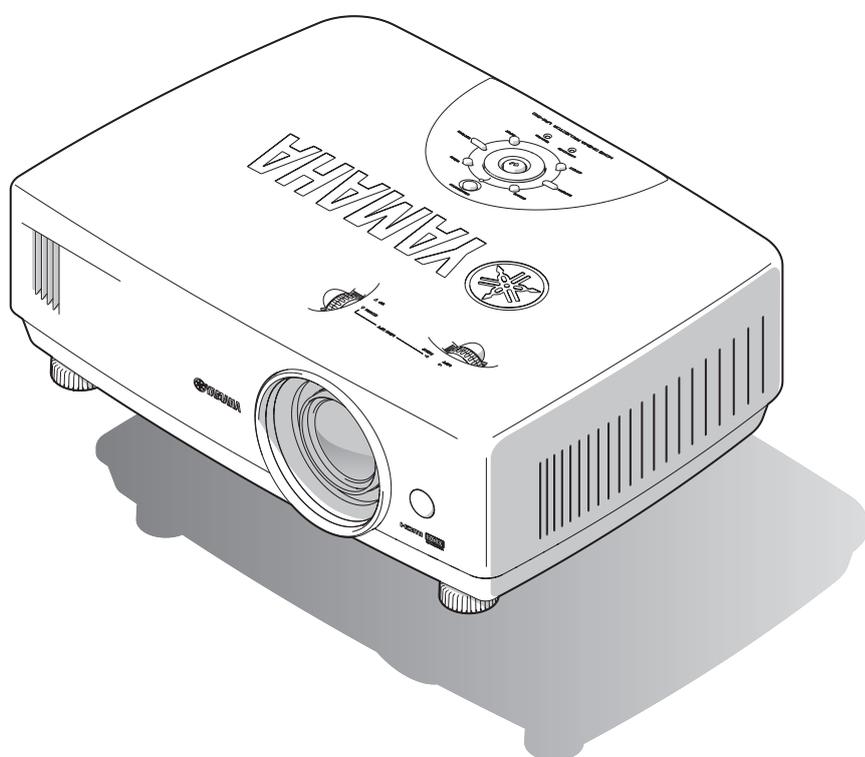


LPX-510

ホーム シネマ プロジェクター



取扱説明書

ヤマハホームシネマプロジェクターLPX-510 をお買い上げ
いただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なく
お使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書
をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共
に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
- 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、
販売店からお受け取りください。

 **NATURAL BLACK**

保証書別添付

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



気をつけなければならない内容
を表しています。
たとえば▲は「感電注意」を示
しています。



してはいけない行為を表して
います。
たとえば⊘は「分解禁止」を示
しています。



必ずしなければならない行為
を表しています。
たとえばⓂは「電源プラグを
コンセントから抜くこと」を示
しています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音がする。
 - 煙が出る。
 - 内部に水や異物が混入した。
- そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
 - ステープルで止めない。
 - 加工をしない。
 - 熱器具には近づけない。
 - 無理な力を加えない。
- 芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
 - 加湿器を過度にきかせた部屋
 - 雨や雪、水がかかる場所
- 水滴の混入により火災や感電の原因となります。



分解禁止

分解・改造は厳禁。ランプとエアフィルターとの交換時を除き、キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。



禁止

放熱スペース確保のため、排気口及び吸入口のそばにはものを置かない。

- 布やテーブルクロスをかけない。
 - じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
 - 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
- 本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。



必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を迫る可能性が想定される内容を示しています。



必ず行う

必ず AC 100V (50/60Hz) の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると火災や感電の原因となります。



必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。



禁止

本機を不安定なところには置かない。
本機の転倒や落下によりランプが破裂して、けがをする原因となります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ろうソクなどを置かない。
●水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
●接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。



禁止

ランプの点灯中は、決して光源レンズをのぞかない。
強い光によって視力障害などを引き起こす原因となります。



注意

本機に使われている水銀ランプは取扱いを間違えると破裂するおそれがあります。
●ランプに衝撃や傷を与えない。 ●ランプ交換時期を越えて使用しない。
●本機を使用中はランプに顔を近づけない。
けがや中毒を起こす原因となります。
万一ランプが破裂した場合は、破裂時に生じたガスを吸い込んだり目や口に入れないようにご注意ください。すみやかに部屋の換気を行い、新しいランプの交換を販売店にご依頼ください。



必ず行う

プロジェクターを天吊りしている状態で、ランプを交換する場合は、天吊りユニットから外してから交換する。
ランプが破裂している場合、ガラス破片がこぼれ落ちて、けがの原因となります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

禁止



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

禁止



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く



電池は極性表示（プラス⊕とマイナス⊖）に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

必ず行う



指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止



電池と金属片をいっしょにポケットやバックなどに入れて携帯しない。

端子間でショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止



電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止



電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

禁止



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

ほこりや湿気の多いところへ設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。



禁止

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。



注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。



必ず行う

必ず付属の専用電源コードを使用する。

専用コード以外の使用は、火災や感電の原因となることがあります。



必ず行う

電源プラグは確実にコンセントに根もとまで差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。



禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



禁止

ランプを点灯した状態でレンズキャップをつけたまま放置しない。

レンズ部に熱がこもり故障の原因となることがあります。



禁止

動作中や停止直後のランプには手を触れない。

高熱により火傷をする原因となることがあります。
(ランプ交換は、ランプが充分冷えた状態で行ってください。)



注意

ランプは破裂しているおそれがあります。ランプカバーを開ける際は、ガラス破片にご注意ください。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



必ず行う

ランプ交換時は必ず専用の交換用ランプカートリッジ (PJL-520) を使用する。
それ以外のランプカートリッジは本機には使用できません。



禁止

お客さまによる天吊りなどの工事は一切行わないでください。
(工事は技術と経験が必要です。お買上げ店または専門の工事業者にご依頼ください。)

不十分な取り付けは、本機が落下して、けがをする原因となることがあります。



注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災の原因となることがあります。



必ず行う

使いきった電池は、すぐに電池ケースから取り外してください。乾電池が破裂したり、乾電池から液が漏れることがあります。



必ず行う

使いきった電池は、自治体の条例または取り決めにしたがって廃棄してください。

表示について

 注意	本機の故障や損傷の原因になるおそれがある内容を記載しています。
	関連する情報や知っておくと便利な情報を記載しています。
	関連事項や、より詳しい説明を記載しているページを示しています。
▶▶	マークの前のアンダーラインの引かれた用語は、用語解説で説明しています。 「付録 用語解説」をご覧ください。📖 p.63
[(ボタン名)]、	操作パネルまたはリモコンのボタンを示しています。 例：[MENU]
「(メニュー名)」	メニューの項目を示しています。 例：「画質」-「入力調整」

目次

使用・保管時のご注意.....	2
付属品.....	3
本機の特長.....	4

基本的な操作

電源を入れて投写しよう.....	6
電源コードの接続.....	6
電源 ON、投写開始.....	7
電源を切り終了しよう.....	9
投写画面を調整しよう.....	11
投写サイズの微調整 (ズーム調整).....	11
投写映像の位置調整 (レンズシフト).....	12
台形にゆがむ場合の調整 (台形補正).....	13
テストパターンを表示してみよう.....	14
画質を調整しよう.....	15
ピントの調整 (フォーカス調整).....	15
明るさの調整 (アイリス調整).....	16
映り具合を選ぶ (ピクチャモード選択).....	17
映像の縦横比の選択 (アスペクト比の選択).....	18

お好みの画質に調整するための機能

代表的な画質調整機能.....	22
機能の紹介.....	22
お好みの画質を登録する / 呼び出す (メモリー保存).....	24
メニューの機能.....	26
メニュー一覧.....	26
「画質」メニュー.....	28
「設置」メニュー.....	30
「情報」メニュー.....	33
「初期化」メニュー.....	33
メニューの操作方法.....	34

困ったときに

故障かなと思ったら.....	38
インディケータを確認してもわからないとき.....	40
映像に関するトラブル.....	40
投写開始時のトラブル.....	44
リモコンでのトラブル.....	44

付 録

お手入れの方法.....	46
各部の掃除.....	46
消耗品の交換.....	48
投写映像に縦線ノイズが目立つようになったら.....	52
オプション品一覧.....	54
対応解像度一覧.....	55
コンポーネントビデオ / RGB ビデオ.....	55
コンポジットビデオ / S ビデオ.....	55
Analog-RGB/HDMI 端子からの入力信号.....	56
HDMI 端子入力信号フォーマット対応範囲.....	56
仕様一覧.....	57
外形寸法図.....	58
各部の名称と働き.....	59
前面 / 上面.....	59
本体操作パネル.....	60
背面.....	61
底面.....	61
リモコン.....	62
用語解説.....	63
索引.....	64

基本的な操作

お好みの画質に調整するための機能

困ったときに

付 録

使用・保管時のご注意

故障や誤動作、破損の原因となりますので、次の注意事項を必ず守ってください。

取り扱い・保管上のご注意

- **高圧電線や磁気を発生するものの近くには設置しないでください。**
正しく、動作しない場合があります。
- **レンズを素手でさわらないでください。**
レンズ面に指紋や皮脂が付くときれいに投写できません。本機を使用しないときはレンズにレンズキャップを取り付けてください。
- **投写中、点灯したままの点（ドット）や消灯したままの点が見れる場合があります。**
これは、液晶パネルの特性で起きるもので、故障ではありません。液晶パネルは非常に精密度の高い技術で作られています。黒い点が見えたり、赤や青、緑の点が常時点灯することがあります。また、すじ状に色のむらや明るさのむらが見えることもあります。
- **保管の際にはリモコンから電池を取り出しておいてください。**
長期間電池を入れたままにしておくと、液もれなどを起こす原因になります。
- **レンズが汚れたり、キズがついたりするのを防ぐために、保管時には必ずレンズキャップを付けてください。**
- **本機の光源に使用している水銀ランプは、衝撃や傷、使用時間の経過による劣化などで、大きな音を伴って破裂したり、チラツキの増加または不点灯状態になったりして、寿命にいたります。**
このとき、ランプの個体差や使用条件によって破裂や不点灯にいたるまでの時間に、かなり大きな差があります。これは、水銀ランプの特性によるものです。
万一に備えて、あらかじめ交換用ランプをご用意ください。
- **プロジェクターの故障、および不点灯により発生した損害について、定められたサービス範囲以外は免責とさせていただきます。**

ランプ不点灯について

本機の光源に使用している水銀ランプは、まれに不点灯状態になることがあります。これは、水銀ランプの特性によるものです。万一、本機の電源を入れてもランプが点灯しない場合は、いったんランプを取り出してランプが割れていないか確認してください。ランプが割れていない場合は、ランプをセットし直します。ランプの取り外し、セット方法は本書 49 ページの「ランプの交換方法」をご覧ください。
ランプが割れていた場合は、新しいランプと交換してください。万一に備えて、あらかじめ交換用ランプをご用意ください。

本機を持ち運ぶ際のご注意

- **本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。**
またすべての配線をはずした状態であることを確認してください。
- **レンズにレンズキャップを取り付けてください。**
- **フット部を収納してください。**

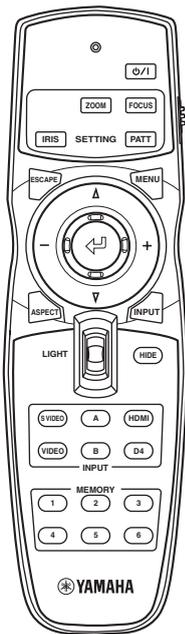
輸送時のご注意

本機を梱包箱に入れて輸送する際は、レンズシフトをいっぱいまで下向きにしてください。

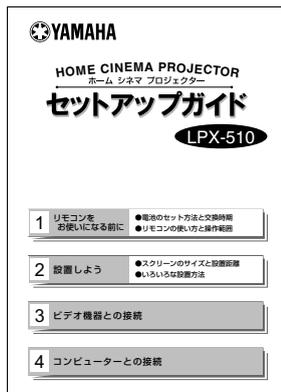
付属品

同梱されている付属品を確認してください。

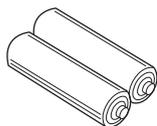
リモコン



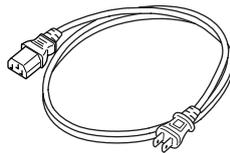
セットアップガイド



単三乾電池 × 2 本



電源コード



レンズキャップ



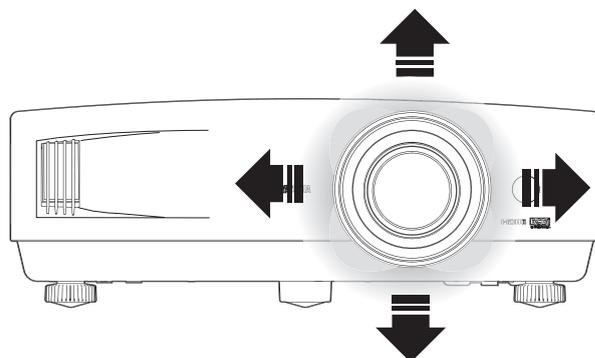
レンズ面を保護するために、本機を使用しない時は必ずレンズに装着してください。

▶ ご覧になるお部屋や映像に合わせた映り具合の選択 (ピクチャモード)

映像表現をより豊かに伝える独自のCB(カラーバランス)フィルターを搭載。ゲーム、スポーツ観戦、映画鑑賞等、使用シーンに合わせて最適な映像を映し出します。面倒なカラー調整は不要 ㊦ p.17

▶ 広角レンズシフトを搭載

投写映像の位置を、映像をゆがめることなく上下・左右に調整できるレンズシフト機能を搭載。天井りにしたり、スクリーンのサイドから投写したり設置場所を選びません。㊦ p.12



▶ 広範囲の輝度調整

映像の明るさを広範囲で調整できます。明るい部屋でビデオやゲームを楽しむときも、部屋を暗くして本格的にホームシアターを楽しみたいときも、最適な映像をご覧いただけます。㊦ p.28

▶ 電動ズーム/電動フォーカス調整

本体の操作パネルやリモコンを使って簡単にズーム調整・ピント調整できます。1.5倍まで映像を拡大できる高倍率レンズを搭載しているため、6畳間で80型の大画面へ投写することもできます。㊦ p.11,15

▶ 映像に合わせて設定できる豊富な機能

その他にも、以下のような多彩な機能があります。

- 動きの大きい映像や静止画などをご覧になる場合に最適なプログレッシブ変換や動き検出機能 ㊦ p.30
- ワイド映像をご覧いただけるアスペクト機能 ㊦ P.18
- 調整した結果を登録しておき、リモコンのボタンで簡単に呼び出すことができるメモリー機能 ㊦ p.24
- 調整後、誤って変更しないように本機の操作パネルをロックするキーロック機能 ㊦ P.32
- ファロージャが開発した、ビデオ専用高画質化回路DCDiを搭載。従来のプログレッシブ変換で課題とされていたジャギーを大幅に削減できます。㊦ p.30

基本的な操作

ここでは、投写開始と終了、投写映像の調整など基本的な機能について説明しています。

電源を入れて投写しよう	6
• 電源コードの接続.....	6
• 電源 ON、投写開始.....	7
電源を切り終了しよう	9
投写画面を調整しよう	11
• 投写サイズの微調整（ズーム調整）.....	11
• 投写映像の位置調整（レンズシフト）.....	12
• 台形にゆがむ場合の調整（台形補正）.....	13
• テストパターンを表示してみよう.....	14
画質を調整しよう	15
• ピントの調整（フォーカス調整）.....	15
• 明るさの調整（アイリス調整）.....	16
• 映り具合を選ぶ（ピクチャモード選択）.....	17
• 映像の縦横比の選択（アスペクト比の選択）.....	18
・ ノーマルモード.....	19
・ スクイーズモード.....	19
・ ズームモード.....	19
・ スマートズームモード.....	20
・ スルー.....	20
・ スクイーズスルー.....	20

電源を入れて投写しよう

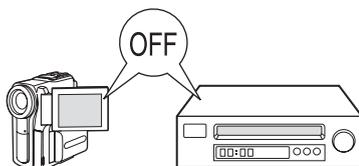
電源を入れ、投写を行うまでの手順を説明します。



投写にあたっては、本書の「安全上のご注意」を必ずお読みになり、投写上の注意を確認してください。

電源コードの接続

1

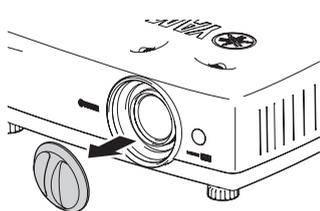


本機に接続する、すべての機器の電源が切れていることを確認します。

2

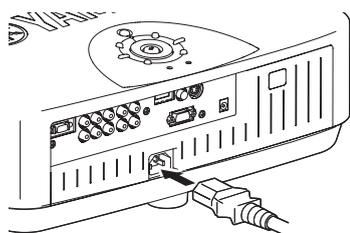
本機とビデオ機器、またはコンピューターを接続します
☞ 「セットアップガイド」

3



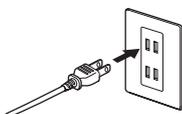
レンズキャップを取り外します。

4

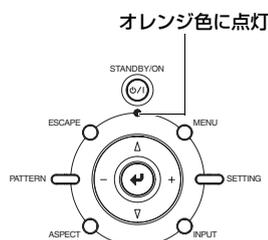


同梱の電源コードを取り付けます。
本機の電源端子と、電源コードのコネクター形状の向きを合わせて、奥までしっかりと差し込みます。

5



電源プラグをコンセントに差し込みます。
⏻ / ハイインディケーターがオレンジ色に点灯し STANDBY 状態になります。



オレンジ色に点灯

STANDBY ON

ESCAPE

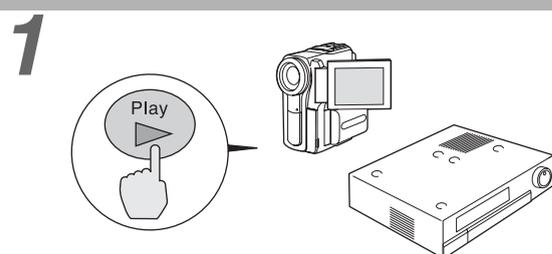
MENU

PATTERN

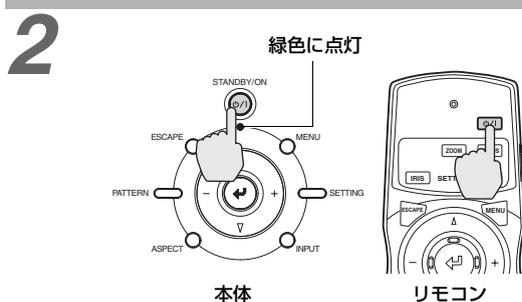
ASPECT

INPUT

電源 ON、投写開始



本機に接続している機器の電源を入れます。
ビデオ機器の場合は、[再生]や[プレイ]ボタンを押し、映像を再生します。



本体の [STANDBY/ON] ボタン、またはリモコンの ボタンを押して電源を入れます。
⏻/⏪インディケーターが緑色の点滅に変わり、しばらくするとランプが点灯し投写が始まります。
⏻/⏪インディケーターが緑色の点灯に変わるのを確認します。

⏻/⏪インディケーターが緑色で点滅しているときは、操作パネルやリモコンのボタン操作は無効となります。緑色の点灯に変わるまでお待ちください。

3 接続機器を複数接続している場合や映像が映らないときは、下表を参照し、本体またはリモコンのボタンを押して映像ソースを切り替えます。

接続端子	選択するボタン		画面右上の表示
	本体またはリモコン	リモコン	
INPUT A	[[INPUT] または 		INPUT A(Component)、INPUT A(RGB TV)、INPUT A(RGB PC)
INPUT B			INPUT B(Component)、INPUT B(RGB TV)、INPUT B(RGB PC)
S VIDEO			S-Video
VIDEO			Video
D4 VIDEO			D4(Component)
HDMI			HDMI(Component)、HDMI(RGB TV)、HDMI(RGB PC)



本体の [[INPUT] ボタン、またはリモコンの ボタンを押すと、セレクトメニューが表示されます。
「INPUT A」または「INPUT B」を選択すると信号方式を選択するメニューが表示されます。
接続している機器の映像信号と一致するものを選択します。
リモコンの場合は、 または ボタンを押すたびに、次の順で信号方式が切り替わります。

Component → RGB TV → RGB PC



- 接続機器が一台だけの場合は、入力切替のボタンを押さなくても投写されます。
- 各入力端子に別々の映像信号を同時に入力した場合、信号間の干渉により、ノイズが発生することがあります。このようなときには、使用していない映像機器側の電源を切るか、接続を外して利用してください。
- 「映像信号が入力されていません。」と表示されたままの場合は、接続をもう一度確認してください。なお、接続機器からの信号が入力されるまでの間は、投写映像が何も表示されない状態になります。
- ノートタイプや液晶一体型のコンピューターを接続したときには、映像が投写されないことがあります。接続後にコンピューターの信号を外部に出力させる設定を行ってください。

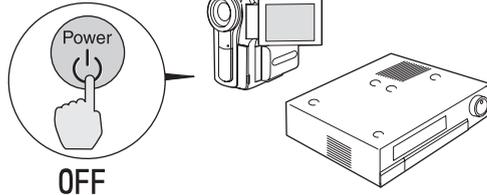
下表は、出力切り替えの一例です。詳しくはコンピューターの取扱説明書の「外部出力のしかた」「外部モニターへの出力」などの項をご覧ください。

NEC 製	Panasonic 製	東芝製	IBM 製	SONY 製	富士通	Macintosh
[Fn]+[F3]	[Fn]+[F3]	[Fn]+[F5]	[Fn]+[F7]	[Fn]+[F7]	[Fn]+[F10]	再起動した後、コントロールパネルの調整でミラーリングの設定にする。

電源を切り終了しよう

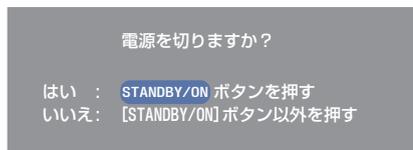
投写を終了するには、次の手順で行います。

1



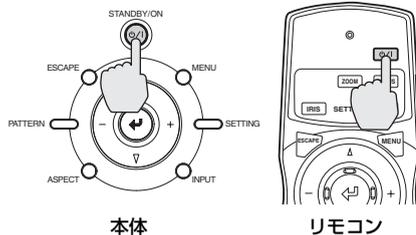
本機に接続している機器の電源を切ります。
すべての接続機器の電源が切れていることを確認します。

2



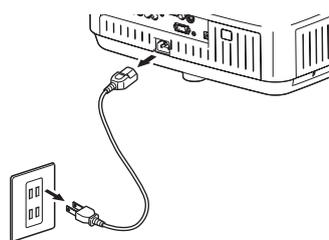
本体の [STANDBY/ON] ボタン、またはリモコンの  ボタンを押します。
左記の確認メッセージが表示されます。
電源を切りたくないときは、他のボタンを押します。
何も操作しないと、約7秒後に自動的にメッセージは消えます (電源は切れません。)

3



もう一度本体の [STANDBY/ON] ボタン、またはリモコンの  ボタンを押します。
ランプが消灯し、 インディケータがオレンジ色に点滅し、クールダウン  が始まります。
クールダウン中 (約30秒間) は、リモコンまたは本体の操作は無効になります。
クールダウンが終了すると  インディケータがオレンジ色の点灯に変わります。(スタンバイ状態)

4



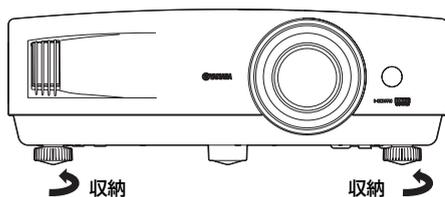
長時間本機を使用しない場合は、電源コードのプラグをコンセントから抜きます。
必ずスタンバイ状態になってから抜いてください。
電源プラグを抜いても、 インディケータはしばらくの間点灯を続け、その後消灯します。



注意

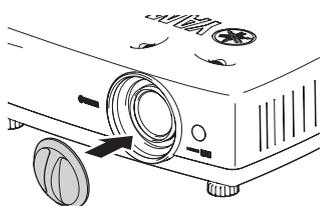
投写中やクールダウン中は、電源コードのプラグをコンセントから抜かないでください。万一、投写中などに電源コードのプラグを抜いてしまった場合は、ランプが十分冷えてから (約1時間必要) 本機の電源を入れるようにしてください。ランプが冷えないうちに電源を入れた場合は、ランプ点灯失敗のエラーが生じることがあります。  ランプ点灯失敗 p.38

5



フロントフットが出ているときは収納します。
フロントフットを回して収納します。

6



レンズキャップを取り付けます。
レンズにホコリや汚れが付着するのを防ぐために、
使用しないときはレンズキャップを取り付けます。

7

本機と接続している機器のケーブルなどを
外します。

投写画面を調整しよう

投写画面の各種調整を行い、最適な投写状態にします。

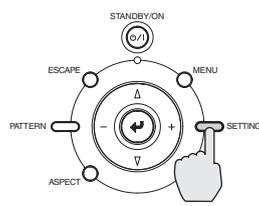
投写サイズの微調整（ズーム調整）

基本的に投写サイズは、スクリーンから本機の設置位置までの距離で合わせます。

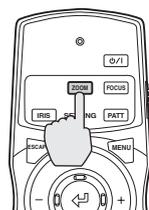
☞ 『セットアップガイド』

ここでは、その後に行う調整の方法を説明します。

1



本体



リモコン

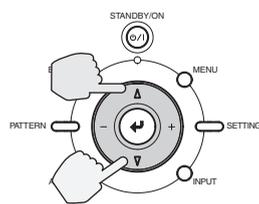
本体の [SETTING] ボタン、またはリモコンの [ZOOM] ボタンを押します。

投写中の映像上に調整アイコンが表示されます。

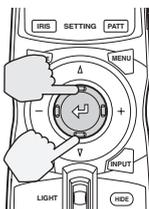
本体の [SETTING] ボタンを押すたびに、次の順で調整モードが切り替わります。

ズーム→フォーカス→アイリス

2



本体



リモコン

投写サイズを調整します。

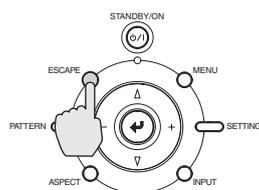
本体の場合は、△または▽ボタンを押して調整します。

リモコンの場合は、⊕ボタンを上下に傾けて調整します。

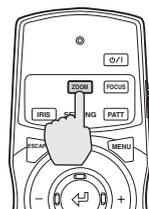
テストパターン表示中に調整することもできます。

☞ p.14

3



本体



リモコン

調整モードを終了します。

本体の [ESCAPE] ボタン、またはリモコンの [ZOOM] ボタンを押します。



電動ズームロックがオンに設定されているときは、投写サイズの調整を行うことはできません。

この時🔒が表示されます。調整する場合は、電動ズームロックの設定をオフにしてください。

☞ p.32

投写映像の位置調整 (レンズシフト)

本機を次のような場所に設置するときは、レンズシフト機能を使って映像を投写する位置を調整します。

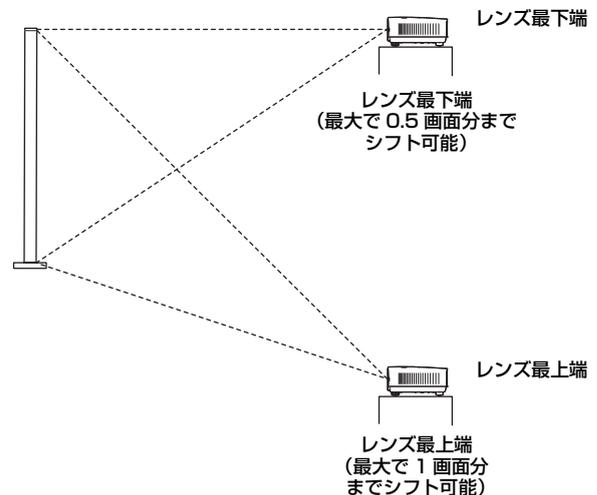
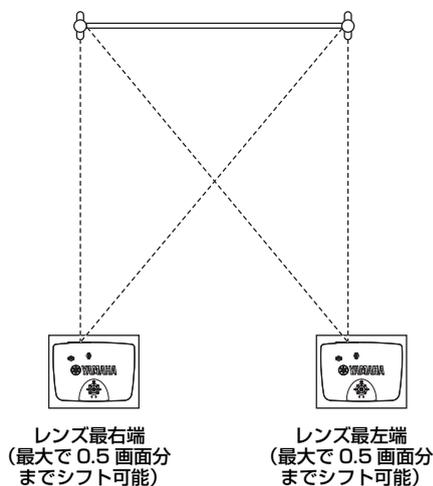
- 天吊りで使用するとき
- 高い位置にスクリーンがあるとき
- スクリーンの正面に座って映像を見るために、本機を横に置くとき
- 棚の上などに本機を置くとき

レンズを上下・左右にシフトすることにより、映像がゆがむことなく投写位置を調整できます。投写映像の位置調整は、2つのレンズシフトダイヤルを使って調整します。

※出荷時のレンズシフト上下位置は最下端になっていますので調整する前にセンター位置にしてください。

左右レンズシフト：スクリーンの右端から左端の間で設置が可能になります。

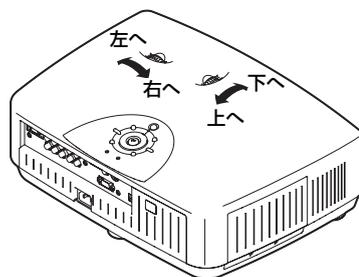
上下レンズシフト：スクリーンの上端から下端より0.5画面分下までの間で設置が可能になります。



※点線の範囲は、レンズの中央位置からの投写範囲です。

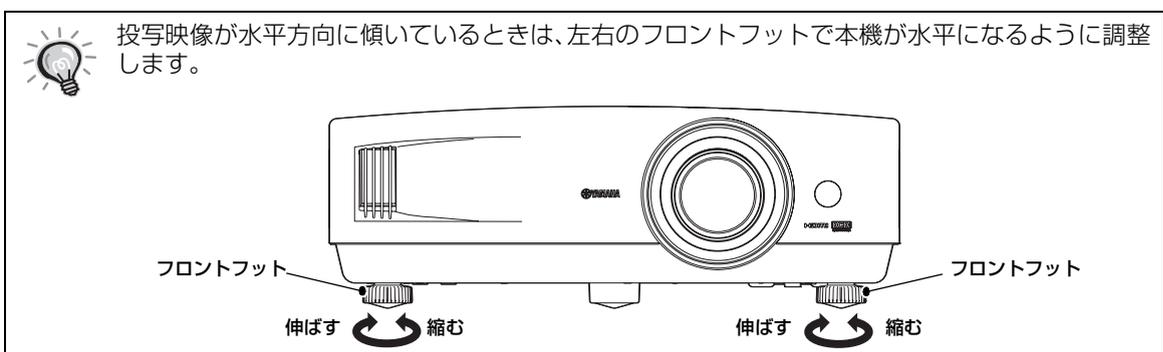
※上下と左右へ同時に最大位置までシフトすることはできません。

調整手順



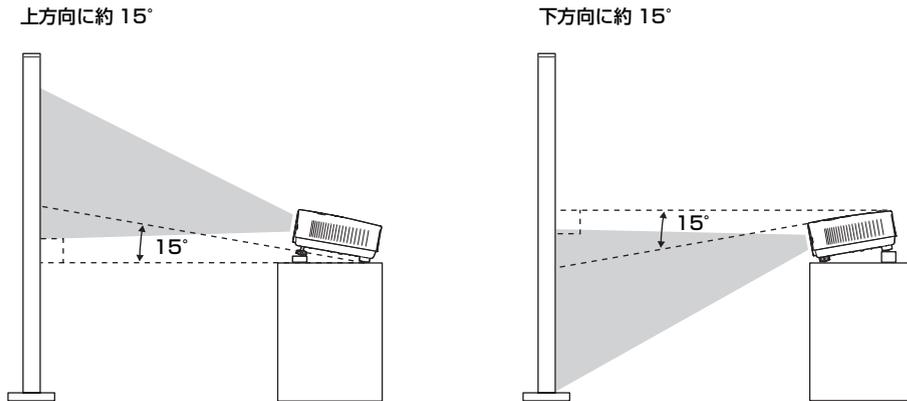
2つのレンズシフトダイヤルを回して調整します。

レンズシフトダイヤルを回したときに、手ごたえのある箇所があります。そこがシフト範囲のほぼ中心です。また、レンズシフトダイヤルが重くなり、投写映像が移動しなくなったときは、最端位置に達したことを示しています。

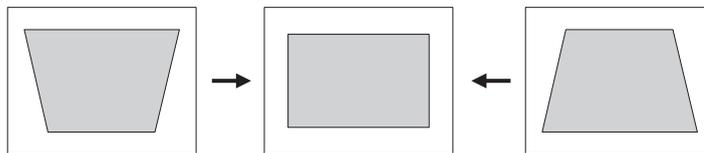


台形にゆがむ場合の調整（台形補正）

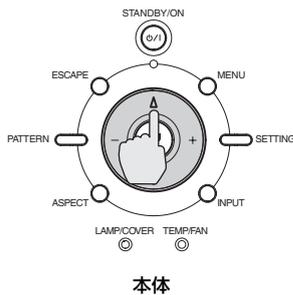
レンズシフトでの調整の範囲を超えて、さらに上下に投写したいときは本機を傾けて設置します。本機を傾けて設置すると、投写映像が台形にゆがむことがあります。上下方向に最大約 15° までの傾きであれば、台形補正機能でゆがみを補正できます。



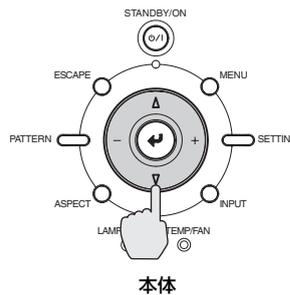
調整手順



本体の△または▽ボタンを押して調整します。



本体



本体

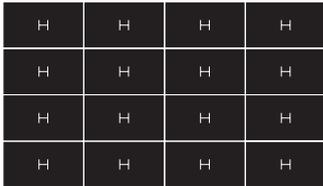


- レンズシフトで調整したときよりも、画質が低下することがあります。
- レンズを左右にシフトしているときは、完全な台形補正をすることはできません。台形補正を行う場合は、レンズを左右方向の中心に設定してください。
- 台形補正をすると画面が小さくなります。
- 台形補正の状態は記憶されます。投写位置や角度を変えたときは、設置状態に合うように再調整してください。
- 台形補正でムラが目立つ場合は、シャープネスを下げてください。☞ p.28
- 台形補正はメニューでも調整できます。☞ p.31
- 台形補正を行っているときに、画面に表示されるゲージの値が変化しなくなったら、台形補正量が限界に達したことを示しています。本機を制限以上に傾けて設置していないか確認してください。

テストパターンを表示してみよう

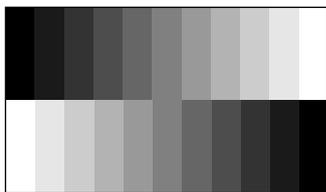
本機を設置するときなどに、テストパターンを表示させて台形補正やラインメニューによる調整ができます。

● クロスハッチ



本機の傾きや、本機がスクリーンに対して垂直に設定されているかを確認できます。

● グレースケールパターン



明るさの調整や、画質、色味を調整するときに使用します。調整はラインメニューで行います。映像信号が入力されていないときは、明るさ以外の調整はできません。

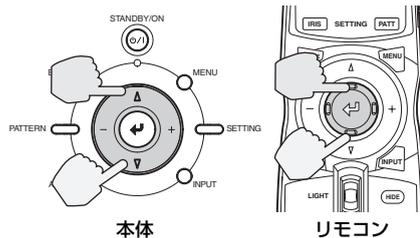
1



本体の [PATTERN] ボタン、またはリモコンの [PATT] ボタンを押します。

パターン選択のセレクトメニューが表示されます。

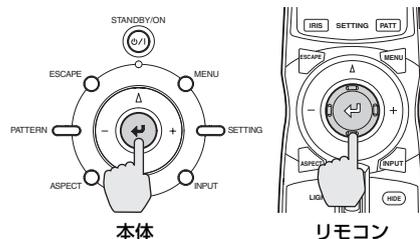
2



パターンを選択します。

本体の場合は、△または▽ボタンを押します。リモコンの場合は、⊕ボタンを上下に傾けます。

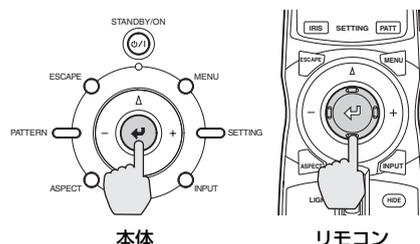
3



パターンを決定します。

本体の⊕ボタン、またはリモコンの⊕ボタンを押し決定します。

4



パターン表示を終了します。

パターン選択のセレクトメニューを表示させ、「表示終了」を選択します。

本体の⊕ボタン、またはリモコンの⊕ボタンを押します。



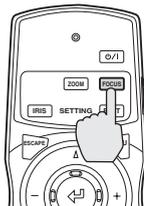
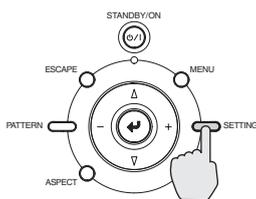
テストパターン表示中は、メニューのフルメニューは表示されません。設定が必要な場合は、本体の⊕ボタン、またはリモコンの⊕ボタンを押してラインメニューを表示させ設定してください。テストパターンを表示した状態で台形補正を行うには、本体の△または▽ボタンを押して設定してください。リモコンでの設定はできません。

画質を調整しよう

映像の画質を調整します。

ピントの調整 (フォーカス調整)

1

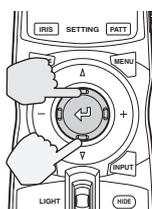
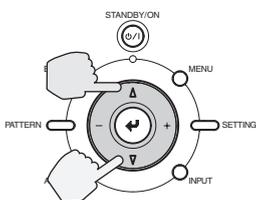


本体の[SETTING]ボタン、またはリモコンの[FOCUS]ボタンを押します。
投写中の映像上に調整アイコンが表示されます。

本体の[SETTING]ボタンを押すたびに、次の順で調整モードが切り替わります。

ズーム → フォーカス → アイリス

2

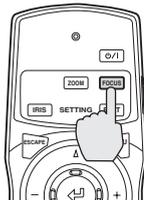
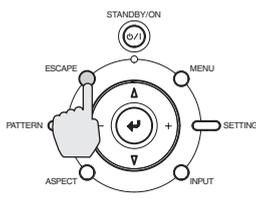


ピントを調整します。

本体の場合は、△または▽ボタンを押して調整します。
リモコンの場合は、 ボタンを上下に傾けて調整します。

テストパターン表示中に調整することもできます。

3



調整モードを終了します。

本体の[ESCAPE]ボタン、またはリモコンの[FOCUS]ボタンを押します。



電動フォーカスロックがオンに設定されているときは、投写サイズの調整を行うことはできません。

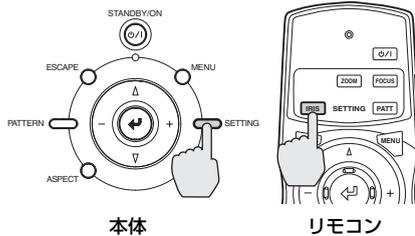
この時が表示されます。調整する場合は、電動フォーカスロックの設定をオフにしてください。 [p.32](#)

明るさの調整 (アイリス調整)

映像の明るさを調整することができます。

暗い部屋で投写したり小さなスクリーンに映す場合に、投写映像が明るすぎるときは調整値を低くします。

1



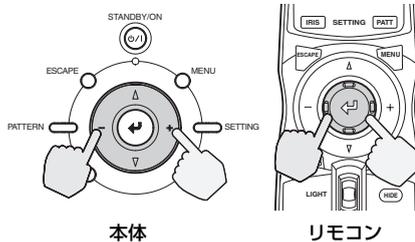
本体の[SETTING]ボタン、またはリモコンの [IRIS] ボタンを押します。

投写中の映像上にラインメニューが表示されます。

本体の [SETTING] ボタンを押すたびに、次の順で調整モードが切り替わります。

ズーム → フォーカス → アイリス

2



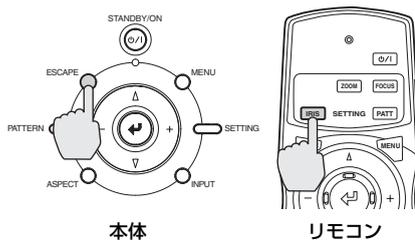
設定値を選択します。

本体の場合は、+ボタンを押します。

リモコンの場合は、➡ ボタンを左右に傾けます。

テストパターン表示中に調整することもできます。

3



メニューを終了します。

本体の [ESCAPE] ボタン、またはリモコンの [IRIS] ボタンを押します。



ランプパワーメニューを使って明るさを調整することもできます。☞ p.31

映り具合を選ぶ(ピクチャモード選択)

映像の特徴に合わせた次の6種類の色調整があらかじめ登録されています。使用シーンに応じてセレクトメニューで選択します。

モード名	使い方
ダイナミック	明るい部屋でゲームやスポーツ観戦をするのに適しています。
ブライト	明るい部屋で映画を鑑賞するのに適しています。
スタンダード	暗い部屋で使用するのに適しています。色調整は、このモードから行うことをお勧めします。
シネマ	暗い部屋で映画を鑑賞するのに適しています。
シネマ・ブラック	完全に遮光した部屋で映画を鑑賞するのに適しています。
PC	コンピューターのような sRGB 準拠の映像をそのまま再生するのに適したモードです。

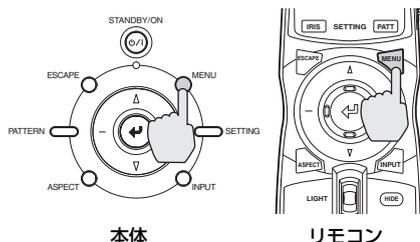
各モードの初期設定状態を下記に示します。

モード名	CB フィルター	ガンマ	絶対色温度(初期値)	アイリス(初期値)	肌色(初期値)	ランプパワー
ダイナミック	オフ	-	7000K	100	5	100
ブライト	オフ	-	7000K	100	5	100
スタンダード	オン	2.2 乗(基本)	6500K	100	3	75
シネマ	オン	-	6500K	100	3	75
シネマ・ブラック	オン	-	6500K	75	3	75
PC	オン	2.2 乗(固定)	6500K	100	3	75

※ CB(カラーバランス) フィルターは各モードにおいて固定されています。

※ピクチャモードを「PC」に設定している場合は、「ガンマ」、「絶対色温度」および「肌色」は調整できません。

1



本体

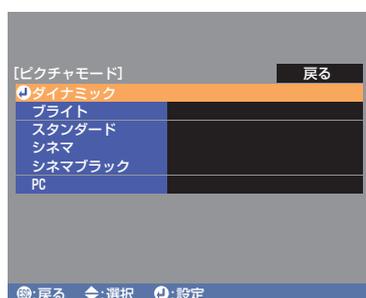
リモコン

本体の [MENU] ボタン、またはリモコンの [MENU] ボタンを押します。

メニューが表示されます。

「画質」-「ピクチャモード」を選択します。

2



ピクチャモードを選択します。

本体の場合は、△ または ▽ ボタンを押してモードを選択し、⊙ ボタンを押して決定します。

リモコンの場合は、⊙ ボタンを上下に傾けてモードを選択し、⊙ を押して決定します。



ラインメニューからも設定できます。
p.36

映像の縦横比の選択 (アスペクト比の選択)

入力映像の縦横比をどのような形で投写するかを選択します。

本機は入力映像信号にアスペクト比情報が含まれている場合、それを検出して自動で最適なアスペクト比に切り替える、オートモードを搭載しています。

- オートモードは、VIDEO、S VIDEO、D4、HDMI▶端子からの入力信号時のみ設定可能です。オートモードで投写すると、次のように信号に応じて最適なアスペクトに切り替わります。

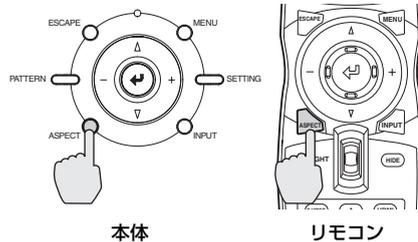
- 4 : 3 の入力信号 → **ノーマル**
- スクイーズ記録された入力信号 → **スクイーズ**
- レターボックスの入力信号 → **ズーム**

※接続機器がEIAJ規格に対応していないときはノーマルになります。

各接続端子での初期設定値は、次のとおりです。

- VIDEO、S VIDEO、D4、HDMI 端子 → **オート**
- INPUT A、INPUT B → **ノーマル**

1



本体の [ASPECT] ボタン、または
リモコンの ASPECT ボタンを押します。
セレクトメニュー(リサイズ)が表示されます。

2



アスペクトモードを選択します。

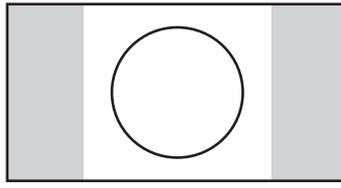
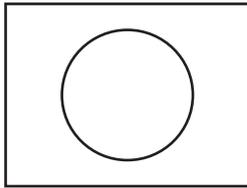
本体の場合は、△または▽ボタンを押してモードを選択し、⊕ボタンを押して決定します。

リモコンの場合は、⊕ボタンを上下に傾けてモードを選択し、⊕ボタンを押して決定します。

それぞれのモードの詳細は、次のとおりです。

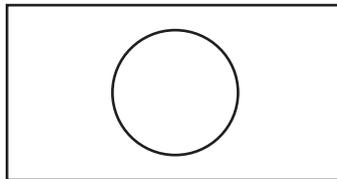
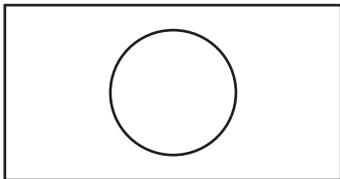
ノーマルモード

4 : 3 の映像



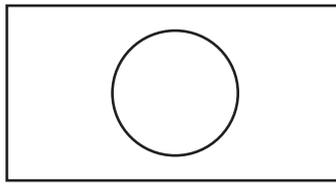
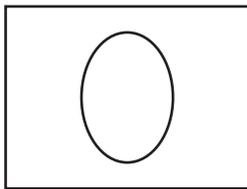
入力映像のアスペクトを保持したまま、16 : 9 のスクリーンに投写します。通常のテレビ放送やコンピューター映像などの4 : 3の映像を映した場合は、左図のように左右に黒い帯が残ります。

HDTV の映像



HDTV の映像を投写した場合は、16 : 9の映像になります。

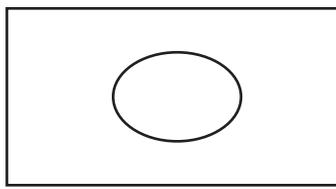
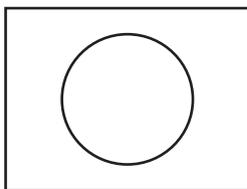
スクイーズモード

スクイーズ記録された映像を
4 : 3 テレビに映した場合

本機で映した場合

ビデオカメラやDVDソフトなどのスクイーズ記録された映像を映す場合に使用します。スクイーズ記録された映像を4 : 3のテレビで見ると、水平方向に圧縮され縦長の映像になります。本機でスクイーズモードを選択すると、元の横長ワイド映像 (16 : 9) に正しく再現して投写できます。

4 : 3 の映像

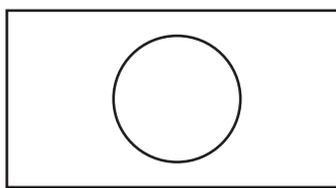
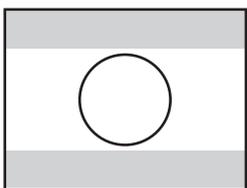


本機のスクイーズモードで映した場合

4 : 3出力の映像を本機のスクイーズモードで投写すると水平方向に拡大され、横長の映像になります。

ズームモード

レターボックスの映像

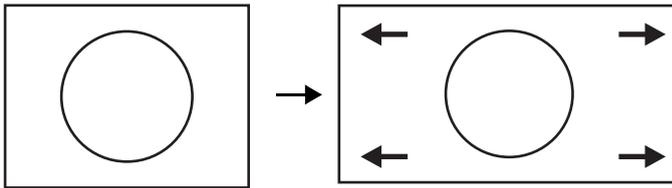


16 : 9 にリサイズ

DVDなどのレターボックスの映像を、上下を指定量だけカットして16 : 9にリサイズして投写します。字幕つき映像の字幕が切れるときは、メニューの「ズーム字幕調整」で調整できます。☞ p.31

スマートズームモード

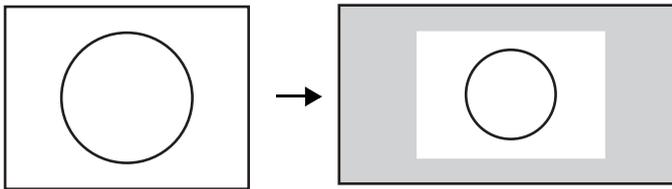
4:3の映像



通常のテレビ放送などの4:3の映像を、画像中心部の拡大比率を抑え、左右端部の拡大比率を大きくリサイズします。4:3の映像をワイド画面で投写する場合に効果的です。中心部は拡大による画像のゆがみが少なくなるので、オリジナルサイズのイメージに近い映像になります。映像の両サイドが引き伸ばされるので、両サイドの動きが速く見え、スピード感あふれた映像になりスポーツ観戦により適しています。

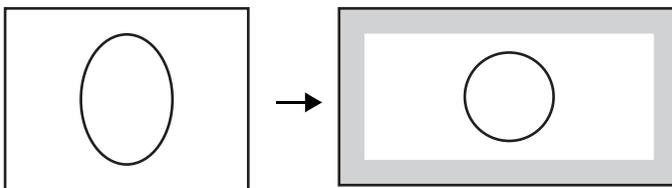
※台形補正を行っている場合はスマートズームを選択することはできません。

スルー



入力信号の解像度が1280×720ドット以下の場合、入力信号の解像度のままスクリーン中央に投写します。このため、入力した解像度によって、表示される大きさが変わります。水平方向及び垂直方向にリサイズしない分、画質はきれいになります。

スクイーズスルー



入力信号の解像度が1280×720ドット以下の場合、入力信号の解像度を水平方向のみに拡大して16:9のアスペクト比に変更して投写します。このため、入力される解像度によって、表示される大きさが変わります。垂直方向にリサイズしない分、画質はきれいになります。

お好みの画質に調整するための機能

この章では、代表的な画質調整機能とメニューについて説明しています。

代表的な画質調整機能	22
• 機能の紹介	22
・ 白レベル調整	22
・ 黒レベル調整	22
・ 入力レベル調整	22
・ コントラスト調整	22
・ 絶対色温度、肌色調整	23
・ RGB 調整	23
• お好みの画質を登録する / 呼び出す (メモリー保存)	24
・ メモリーに登録できる設定	24
・ お好みの画質を登録する	24
・ 登録した画質の呼び出し	25
メニューの機能	26
• メニュー一覧	26
• 「画質」メニュー	28
・ 画質調整	28
・ カラー調整	29
・ ピクチャモード	29
・ メモリー保存	29
・ 自動調整	29
・ 初期化	29
• 「設置」メニュー	30
・ 信号	30
・ 画面調整	31
・ 動作設定	31
・ ユーザーロゴ	32
・ オンスクリーン表示設定	32
・ 入力信号選択	33
・ 言語	33
・ 初期化	33
• 「情報」メニュー	33
• 「初期化」メニュー	33
・ ランプ点灯時間初期化	33
・ メモリー初期化	33
・ 全初期化	33
• メニューの操作方法	34
・ フルメニューの呼び出しと操作	34
・ ラインメニューの呼び出しと操作	36

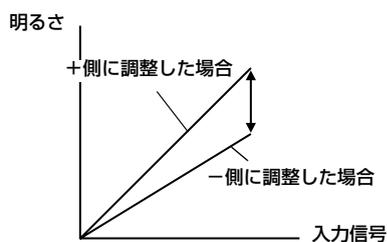
代表的な画質調整機能

ここでは、画質を最適な状態に調整する各機能について説明します。

機能の紹介

白レベル調整

黒レベルを変えずに、白側の明度を調整します。
メニューの「画質」-「画質調整」-「入力調整」-「白レベル / 黒レベル」-「白レベル」で設定します。
☞ p.28

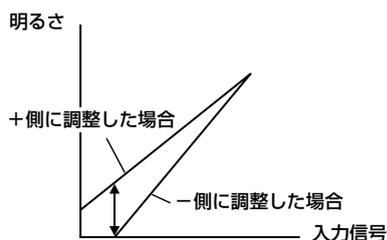


+側に設定すると、白の明るさが上がりコントラストはハッキリしますが、白側の階調は見えなくなります。

-側に設定すると、白側の階調は見やすくなりますが、コントラストは低下します。

黒レベル調整

白レベルを変えずに、黒側の明度を調整します。
メニューの「画質」-「画質調整」-「入力調整」-「白レベル / 黒レベル」-「黒レベル」で設定します。
☞ p.28



+側に設定すると、暗いシーンの輝度が上がり階調はハッキリしますが、コントラストは低下します。

-側に設定すると、黒側の明るさが沈み、コントラストのある映像になりますが、黒の階調が見えなくなります。

入力レベル調整

映像全体の明度を調整します。
+側に設定すると、映像全体が明るい感じになります。
メニューの「画質」-「画質調整」-「入力調整」-「入力レベル/コントラスト」-「入力レベル」で設定します。
☞ p.28

コントラスト調整

映像の明暗の差を調整します。
コントラストを上げるとメリハリのある映像になります。
メニューの「画質」-「画質調整」-「入力調整」-「入力レベル/コントラスト」-「コントラスト」で設定します。
☞ p.28

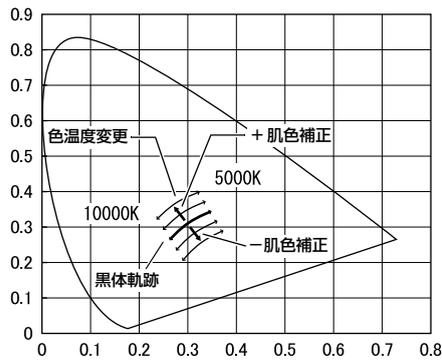
絶対色温度、肌色調整

絶対色温度は、映像全体の色合いを調整します。

肌色調整は、人物の肌の色をお好みの色に調整します。

メニューの「画質」-「カラー調整」-「絶対色温度」、「肌色」で設定します。

☞ p.29



● 絶対色温度

高い値を選択すると青みがかった映像になり、低い値を選択すると赤みを帯びた映像になります。テレビ録画された映像は高い値、映画などの映像は低い値にするなど、ご覧になる映像に応じて 5000K ~ 10000K の範囲内で 12 段階の中から選択します。

● 肌色

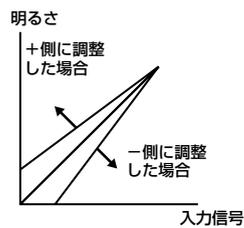
「ピクチャモード」の設定によって自動的に装着される CB(カラーバランス)フィルターで、肌色は自然な色合いになります。

より、お好みの肌色にする場合に、この「肌色」で調整します。大きい値に設定すると緑がかった色になり、小さい値に設定すると赤紫がかった色になります。

RGB 調整

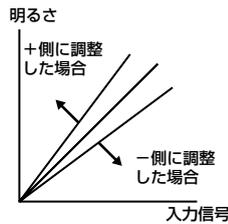
映像の明度を、R(赤)、G(緑)、B(青)についてそれぞれ、暗い部分(オフセット)、明るい部分(ゲイン)、中間部分(ガンマ)を調整します。細かい調整が可能なのでより奥行きのある映像になります。☞ p.29

オフセット調整



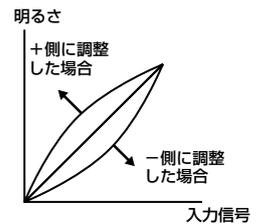
暗い部分をよりハッキリ見たい場合は、+側に設定します。-側に設定するほど、映像全体にメリハリがつきますが、暗い部分のコントラストは落ちます。

ゲイン調整



明るい部分をよりハッキリ見たい場合は、-側に設定します。+側に設定するほど、より白に近づき明るく感じますが、コントラストは落ちます。

ガンマ調整



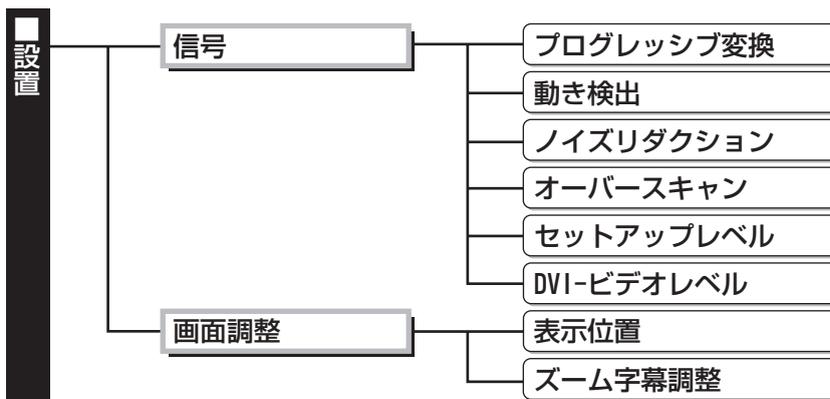
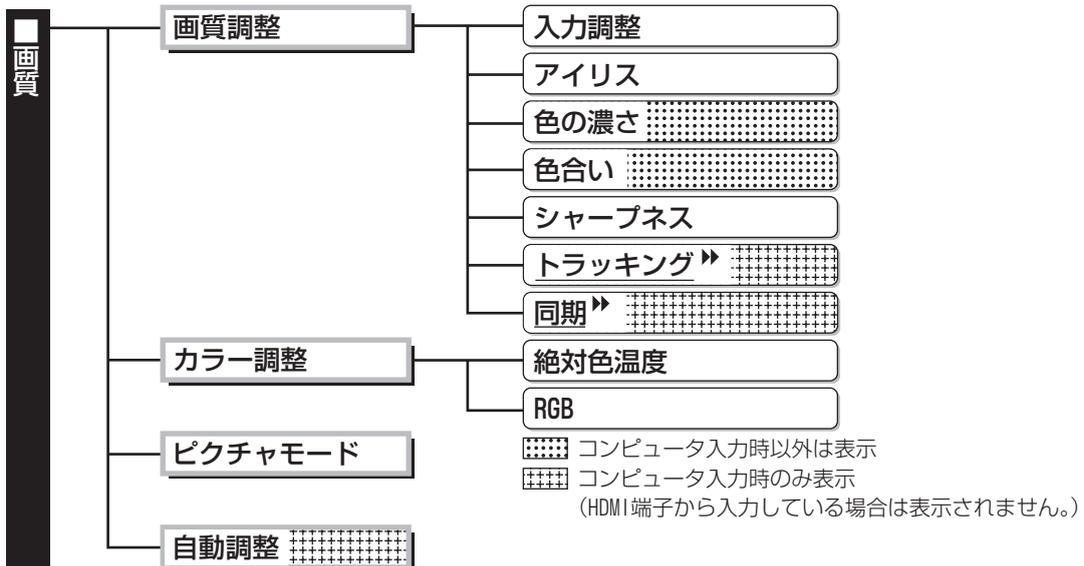
-側に設定すると、なめらかな映像になります。+側に設定するとメリハリのある映像になります。

お好みの画質を登録する / 呼び出す (メモリー保存)

メニューの「画質調整」や「カラー調整」などで投写映像を調整したあとで、その調整値を登録することができます。登録した調整値を簡単に呼び出すことができるので、いつでも容易にお好みの画質で映像を楽しめます。

メモリーに登録できる設定

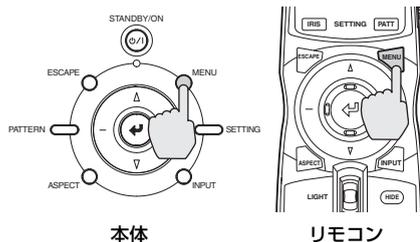
• メニュー  p.26



• アスペクト  p.18

お好みの画質を登録する

1



本体の [MENU] ボタン、またはリモコンの [MENU] ボタンを押します。

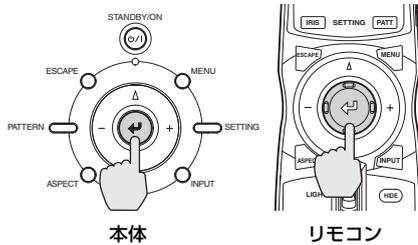
メニューを表示させ、登録したい状態に各設定を調整します。

2



メニューの「画質」-「メモリー保存」を選択し、本体の \odot ボタン、またはリモコンの \odot ボタンを押します。

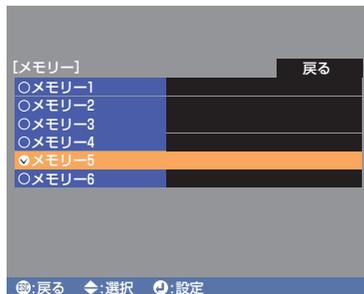
3



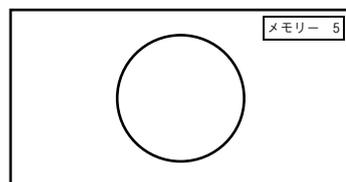
調整値を登録するメモリー番号(1～6)を選択し、本体の \odot ボタン、またはリモコンの \odot ボタンを押して決定します。

登録されたメモリー番号のアイコンが○から☑に変わります。

 登録済みのメモリー番号を選択し登録すると、前の調整値が消えて現在の調整値が登録されます。



登録した画質の呼び出し



呼び出したい画質に対応するリモコンのMEMORY [1]～[6] ボタンを押します。

画面右上に選択されたメモリー番号が表示され、対応する調整値を投写映像に反映します。



- メモリー保存されていない状態で MEMORY [1]～[6] ボタンを押しても、呼び出しおよび表示はしません。
- メモリーを呼び出した結果は、本機の電源をオフしても保持されます。次回電源を入れたときには、同じメモリーの調整値で映像を投写します。
- 16:9 の映像や、入力映像の解像度によって、呼び出したメモリーのアスペクトが投写映像に反映されない場合があります。

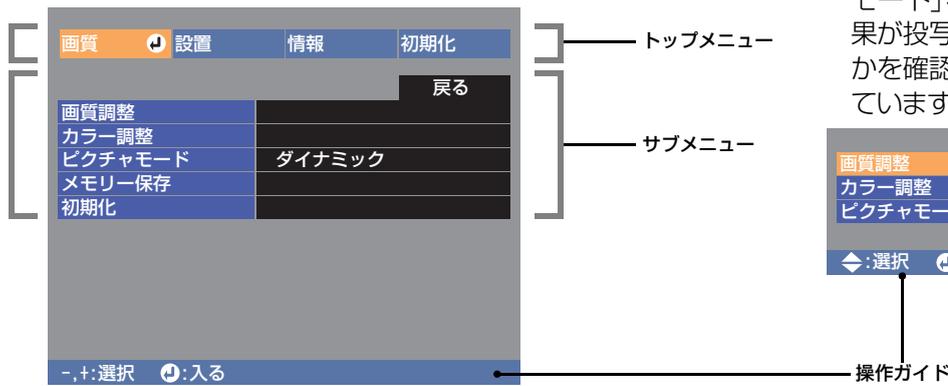
好みの画質に調整するための機能

メニューの機能

メニューでは、画面、画質、入力信号などの調整や設定を行うことができます。
メニューには、次の2種類があります。

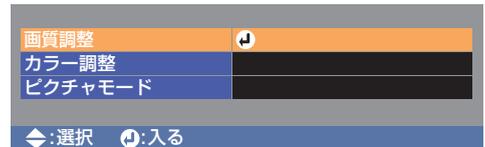
• フルメニュー

メニューの全項目を確認しながら設定
できます。



• ラインメニュー

メニューの「画質」メニュー内の「画質調整」と「カラー調整」および「ピクチャモード」を調整できます。調整した結果が投写映像にどのように反映されるかを確認しながら調整するときに適しています。



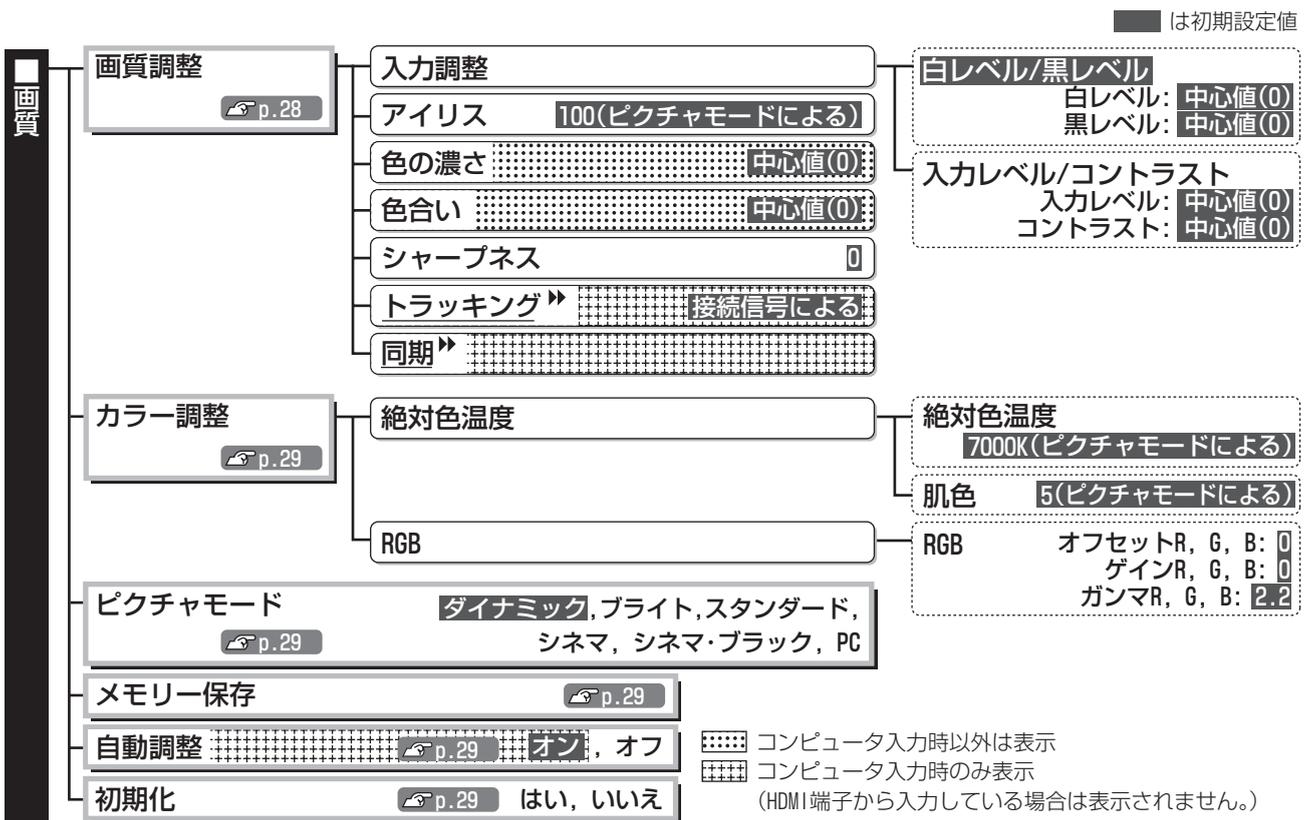
操作方法の詳細は「メニューの操作方法」(p.34) をご覧ください。



メニューは、操作ガイドの表示 / 非表示、カラーパターン、表示位置を変更できます。
☞「設定」→「オンスクリーン表示設定」→「メニュー表示位置」、「操作ガイド」、「メニューカラー」

メニュー一覧

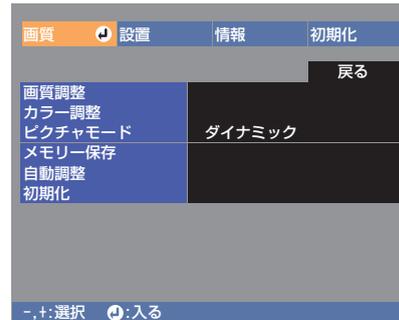
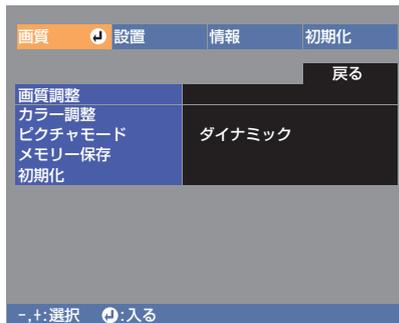
映像信号が何も入力されていないときは、「画質」メニューでは「画質調整」→「アイリス」以外は調整できません。「画質」メニュー、「情報」メニューは投写している映像信号によって表示される項目が異なります。



「画質」メニュー

選択された入力端子（映像信号）により、画質調整項目が決まります。

- INPUT A、B(Component)、
INPUT A、B(RGB TV)、
HDMI、VIDEO、S-VIDEO
- コンピューター信号入力時
INPUT A、B(RGB PC)



画質調整

メニュー	機能	初期設定値
入力調整 ※ ¹	<p>接続機器の出力レベルが弱く映像が暗く感じる場合に調整します。両方を組み合わせて設定することはできません。いずれかを選んでお使いください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 白レベル/黒レベル：映像の暗い部分、明るい部分を調整します。 白レベル：黒レベルを変えずに、白側の明度を調整します。 一側に設定すると明るい部分がはっきり見えるようになります。 黒レベル：白レベルを変えずに、黒側の明度を調整します。 +側に設定すると暗い部分がはっきり見えるようになります。 ● 入力レベル/コントラスト：映像全体の明度を調整します。 入力レベル：映像全体の明度を調整します。 +側に設定すると映像全体が明るい感じになります。 コントラスト：映像の明暗の差を調整します。 コントラストを上げるとメリハリのある映像になります。 	<p>白レベル/ 黒レベル</p> <hr/> <p>白レベル： 中心値(0) 黒レベル： 中心値(0)</p> <hr/> <p>入力レベル： 中心値(0) コントラスト： 中心値(0)</p>
アイリス ※ ²	<p>映像の明るさを調整することができます。 暗い部屋で投写したり小さなスクリーンに映す場合に、投写映像が明るすぎるときは調整値を低くします。</p>	100
色の濃さ ※ ¹	<p>(コンピューター信号入力時以外のみ設定可能) 映像の色の濃さを調整します。</p>	中心値(0)
色合い ※ ¹	<p>(コンピューター信号入力時以外のみ (S-ビデオ) は NTSC 系の信号のみ) 設定可能) 映像の色合いを調整します。</p>	0
シャープネス ※ ¹	<p>映像のシャープ感を調整します。</p>	0
トラッキング ※ ¹	<p>(INPUT A 端子と INPUT B 端子からのコンピューター信号入力時のみ設定可能) 映像に縦の縞模様が出るときに調整します。</p>	接続信号による
同期 ※ ¹	<p>(INPUT A 端子と INPUT B 端子からのコンピューター信号入力時のみ設定可能) 映像にチラツキ、ぼやけ、横ノイズが出るときに調整します。 ● チラツキ、ぼやけは、明るさやコントラスト、シャープネス、台形補正の調整で発生することもあります。 ● トラッキング調整の後に同期を調整したほうが鮮明に調整できます。</p>	接続信号による

※¹ 映像ソースや信号の種類ごとに設定値が保存されます。

※² 映像ソースとピクチャモードの設定ごとに設定値が保存されます。

カラー調整

ピクチャモードを PC に設定している場合は、「カラー調整」は選択できません。

メニュー	機能	初期設定値
絶対色温度 ※2	●絶対色温度 : 投写する映像に合わせて、映像全体の色合いを調整します。☞ p.23	7000K (ピクチャモードによる)
	●肌色 : 肌色をお好みの色に調整します。☞ p.23	5 (ピクチャモードによる)
RGB ※1	R/G/B ごとにオフセット、ゲイン、ガンマの調整が行えます。☞ p.23	オフセット R/G/B : 0 ゲイン R/G/B : 0 ガンマ R/G/B : 2.2

※1 映像ソースや信号の種類ごとに設定値が保存されます。

※2 映像ソースとピクチャモードの設定ごとに設定値が保存されます。

ピクチャモード ※1

投写する映像に合わせて、色調整を 6 種類から選択します。(初期設定値: ダイナミック)☞ p.17

※1 映像ソースや信号の種類ごとに設定値が保存されます。

メモリー保存

現在の「画質」、「設置」メニューの設定値とアスペクトの設定を登録できます。☞ p.24

自動調整 ※1

(コンピューター信号入力時のみ設定可能)

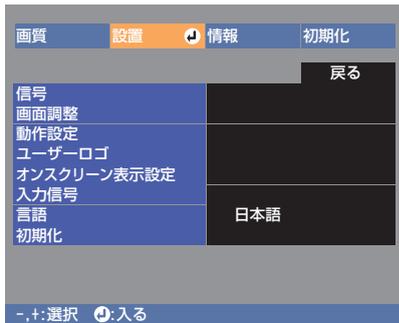
入力信号が切り替わったときに、映像を自動で最適な状態に調整する自動調整のオン / オフを設定します。(初期設定値: オン)

※1 映像ソースや信号の種類ごとに設定値が保存されます。

初期化

「画質」メニューのうち、「メモリー保存」で登録したメモリー以外のすべての調整値を初期値に戻します。「メモリー保存」は「メモリー初期化」で初期化します。☞ p.33

「設置」メニュー

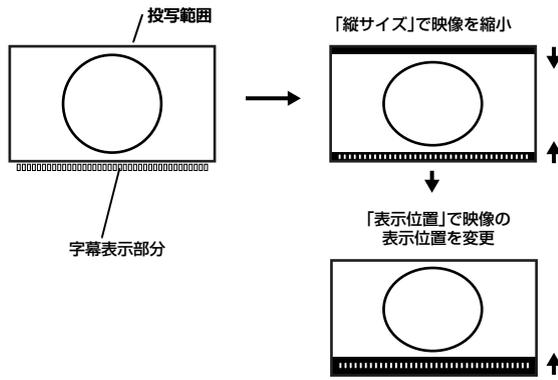


信号

メニュー	機能	初期設定値
プログレッシブ変換 ※1	<p>(コンポジットビデオ、S-ビデオ信号入力時とコンポーネントビデオとRGBビデオの480i、576i 信号入力時のみ設定可能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オフ : 各フィールドの画面内でインターレース ▶▶ (i) 信号をプログレッシブ (p) に変換します。動きの大きい映像をお楽しみいただくときに適しています。 ●ビデオ : IP 変換を行います。フィルム判定機能はオフにします。一般のビデオ映像に適しています。DCDi ▶▶ 機能が働きます。 ●フィルム/オート : 自動的に映画ソースかどうかを判断し、映画の場合はオリジナルとそん色のないフィルム映像を再現します。DCDi ▶▶ 機能が働きます。 	フィルム/オート
動き検出	<p>(コンポジットビデオ、S-ビデオ信号入力時とコンポーネントビデオとRGBビデオの480i、576i 信号入力時のみ設定可能)</p> <p>IP 変換するための設定を、動きの速い映像か、静止 (遅い) 映像かによって調整します。数値が小さいほど、チラツキを抑えてシャープで緻密になり、静止画をご覧になるのに最適となります。数値が大きいほど、ざざざの少ない滑らかな映像になり、動画をご覧になるのに最適となります。</p>	中心値 (3)
ノイズリダクション ※1	<p>(コンポジットビデオ、S-ビデオ信号入力時のみ設定可能)</p> <p>映像のざらつきを抑え、画質をソフトにします。DVD など映像ソースにノイズが少ない場合は、「オフ」に設定することをお勧めします。</p>	オフ
オーバースクアン ※1	<p>(コンポジットビデオ、S-ビデオ、Analog-RGB 信号入力時は設定不可)</p> <p>オーバースクアン (投写する映像の範囲) を変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コンポーネントビデオ、RGB ビデオ信号入力時 <ul style="list-style-type: none"> 標準 (92%表示) : 入力信号の通常の範囲を投写します。テレビ映像などは 92% で表示されます。 フル (100%表示) : 通常では見ることのできない、映像の上下左右を入れて投写します。映像信号によっては上下にノイズが入る場合があります。 ●HDMI 端子接続時 <ul style="list-style-type: none"> オート : 入力信号によって自動的に 100% 表示または 92% 表示で投写します。(接続機器の DVI 端子と本機の HDMI 端子を接続している場合は表示されません。) 標準 (100%表示) : 入力信号の全ての範囲を投写します。 拡大 (92%表示) : 映像の周りを切って投写します。映像の上下にノイズが入る場合に選択します。 	標準 オート
セットアップレベル ※1	<p>(コンポジットビデオ と S-ビデオ の NTSC 信号入力時とコンポーネントビデオ 設定時のみ設定可能。HDMI 端子からの信号入力時は設定不可)</p> <p>アメリカ向けや韓国向けの製品など黒のレベル (セットアップレベル) が違う機器を使用する際に変更します。接続する機器の仕様を確認してから設定してください。</p>	0%
DVI-ビデオレベル ※1	<p>(HDMI 端子からの RGB ビデオ、コンピュータ信号入力時のみ設定可能)</p> <p>本機の HDMI 端子と DVD プレイヤなどの DVI 端子を HDMI 端子 / DVI 端子ケーブルで接続している場合に、DVD プレイヤのビデオレベルの設定に合わせて本機のビデオレベルを設定します。DVD プレイヤ側の設定では、Normal (通常)、Expand (拡張) となっていることがあります。</p>	通常

※ 1 映像ソースや信号の種類ごとに設定値が保存されます。

画面調整

メニュー	機能	初期設定値
表示位置 ※ 1	(HDMI 端子からの信号入力時は設定不可) 映像の表示位置を、本体の場合は、△、▽、←、→ ボタンを押して移動します。リモコンの場合は、Ⓜ ボタンを上下左右に傾けて移動します。	
ズーム字幕調整 ※ 1	アスペクトを「ズーム」に設定し字幕つき映像を投写している場合に、以下の設定を行って字幕を表示します。縦サイズと表示位置は組み合わせて設定できます。 ●縦サイズ： 映像の縦サイズを縮小し、字幕を表示します。 ●表示位置： 映像全体を上に移し字幕を表示します。 	最小値 (0) 中心値 (0)
台形補正	(アスペクトモードを「スマートズーム」に設定している場合は、台形補正は設定不可) 台形にゆがんだ映像を補正します。本体操作パネルからも同じ補正ができます。 ☞ p.13	中心値 (0)
設置モード	本機の設置状態に応じて設定します。 ●フロント：スクリーン正面から投写する場合に選択します。 ●フロント・天吊り：天吊りでスクリーン正面から投写する場合に選択します。 ●リア：リアスクリーンへ裏側から投写する場合に選択します。 ●リア・天吊り：天吊りでリアスクリーンへ裏側から投写する場合に選択します。	フロント

※ 1 映像ソースや信号の種類ごとに設定値が保存されます。

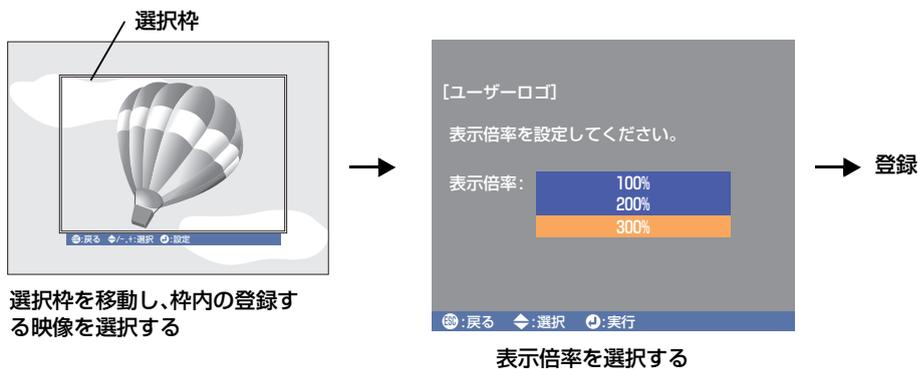
動作設定

メニュー	機能	初期設定値
スリープモード	本機は、信号が入力されていない状態で設定した時間続くと、自動的に電源をオフにして、スタンバイ状態になります。スリープモードが動くまでの時間を 4 種類から選択します。「オフ」にした場合はスリープモードは動きません。スタンバイ状態になっているときは、本体の [STANDBY/ON] ボタン、またはリモコンの Ⓜ ボタンを押すと投写を再開します。	オフ
ランプパワー	ランプの寿命を延ばす目的で、ランプに供給する電力を 6 段階に設定でき、映像の明るさを調整できます。調整値を 75 にするとランプに供給する電力を 25% ほど下げます。	100 (ピクチャーモードによる)
待機モード	電源を切ったときの、待機状態の切り替えを設定します。「RS-232C オフ」に設定すると待機電力は 0.4W となります。「RS-232C オン」に設定すると待機電力は 3W になります。電源を切ったときに通信コマンドを受信するには、「RS-232C オン」に設定します。設定を変更した場合は、電源を切ってクールダウンが終了した以降、設定が有効になります。	RS-232C オフ
トリガーアウト	外部機器制御用の TRIGGER OUT 端子の 12V 電圧出力を、ランプやファンに同期してオン/オフします。「RS-232C」に設定したときは、RS-232C 端子からの制御によりトリガーアウトをオン/オフします。設定を変更した場合は、電源を切ってクールダウンが終了した以降、設定が有効になります。	ランプ連動

メニュー	機能	初期設定値
ロック設定	<p>次の各ロック機能についてオン/オフを設定できます。ロック機能オン時に、ボタン操作を行うと画面上に🔒が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電動フォーカスロック：オンにするとフォーカス調整ができなくなります。 ●電動ズームロック：オンにするとズーム調整ができなくなります。 ●キーロック：オンにすると本体操作パネルのボタン操作が無効になります。設定を変更した場合は、メニューの表示を終了した以降、設定が有効になります。(解除方法)設定をオフに戻す時はリモコンを使ってください。 	<p>オフ</p> <hr/> <p>オフ</p> <hr/> <p>オフ</p>
液晶パネル調整	<p>投写映像に縦方向のノイズが目立つようになったときに、この設定を使って除去します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●縦線調整 R：赤色の階調画面を確認しながら縦線が目立たなくなるように調整します。 ●縦線調整 G：緑色の階調画面を確認しながら縦線が目立たなくなるように調整します。 ●縦線調整 B：青色の階調画面を確認しながら縦線が目立たなくなるようにします。 	

ユーザーロゴ

投写開始時やハイド画面にしたときに投写させるロゴ画像を登録できます。ユーザーロゴの登録を実行すると、現在登録されているユーザーロゴは消去されます。登録を行う場合は、画面の指示に従って操作してください。(初期設定値：🌀YAMAHA)



- 選択枠表示中は映像をドット表示にするため、表示サイズが変わることがあります。
- 登録できるサイズは 480 × 360 ドットです。
- 一度登録すると初期設定状態には戻りません。
- 登録したユーザーロゴを使う場合は、「ハイド画面」を「ロゴ」に設定します。

オンスクリーン表示設定

メニュー	機能	初期設定値
メニュー表示位置	メニューが表示される位置を、本体の場合は、△、▽、-、+ ボタンを押して指定します。リモコンの場合は、🌀 ボタンを上下左右に傾けて指定します。	中央
操作ガイド	メニューの操作ガイドを表示する(オン)/しない(オフ)を設定します。	オン
メニューカラー	フルメニューのトップメニューと操作ガイドの色合いを4種類から選択します。	カラー1
メッセージ表示	次のメッセージ表示をする(オン)/しない(オフ)を設定します。 ●映像信号やピクチャモード、アスペクト、テストパターン、メモリー呼び出し時の項目名表示 ●映像信号が入力されていないときや未対応信号の場合、内部温度上昇時	オン
ハイド画面	リモコンの (HIDE) ボタンを押したときの画面の状態を設定します。画面の状態は「黒」、「青」、「ロゴ」の中から選択できます。	黒
起動画面	起動画面(投写開始時に投写される映像)を表示する(オン)/しない(オフ)を設定します。設定を変更した場合は、電源を切って「クールダウン」が終了した以降、設定が有効になります。	オン

入力信号選択

メニュー	機能	初期設定値
ビデオ信号方式	VIDEO 端子、または S VIDEO 端子に接続しているビデオ機器に応じて信号方式を設定します。「オート」にすると、自動的にビデオ信号を設定します。「オート」にしている場合にも映像にノイズが入ったり、映像が映らないなどのトラブルが起きる場合は、適切な信号を選択してください。	オート
InputA InputB	INPUT A 端子、または INPUT B 端子それぞれに接続しているビデオ機器や、コンピューターの出力信号に合わせて信号方式を設定します。	COMPONENT

言語

メッセージやメニューに表示する言語を設定します。（初期設定値：日本語）

初期化

「設置」メニューのうち、「ユーザーロゴ」、「入力信号選択」、「言語」以外のすべて調整値を初期値に戻します。

「情報」メニュー

情報メニューは、ランプ点灯時間、映像ソース、入力信号、入力解像度、ビデオ信号方式、リフレッシュレート、同期情報における本機の動作状態を表示します。

「初期化」メニュー

ランプ点灯時間初期化

ランプ点灯時間の初期化を行います。実行すると、ランプ点灯時間の累積が初期設定値にクリアされます。

メモリー初期化

「メモリー保存」に登録している内容をすべて初期化（消去）します。

全初期化

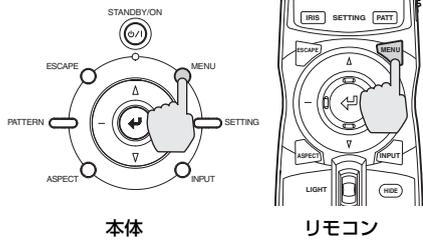
メニューの全項目を初期設定に戻します。「メモリー保存」、「ユーザーロゴ」、「入力信号選択」、「ランプ点灯時間」、「言語」は初期値に戻りません。

メニューの操作方法

フルメニューの呼び出しと操作

メニューは本体とリモコンの両方で操作できます。

1



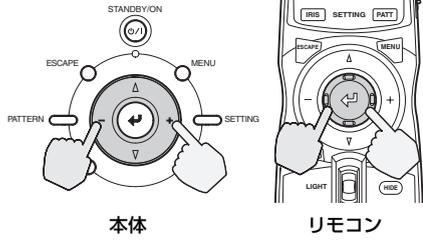
メニューを呼び出します。

本体の [MENU] ボタン、またはリモコンの [MENU] ボタンを押します。

メニューが表示されます。
フルメニューはトップメニューとサブメニューで構成されています。



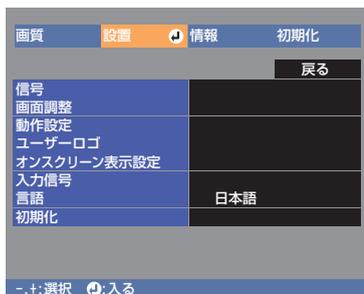
2



トップメニューで設定を変更する項目を選択します。

本体の場合は、- または + ボタンを押して項目を選択し、OK ボタンを押します。
リモコンの場合は、← ボタンを左右に傾けて項目を選択し、OK ボタンを押します。

3



サブメニューで設定する項目を選択します。

本体の場合は、△または▽ボタンを押して項目を選択します。リモコンの場合は、Ⓜ ボタンを上下に傾けて項目を選択します。



設定を実行したり下の階層へ続くサブ項目は、項目名の後ろに ⊕ と表示されています。この場合は本体の ⊕ ボタン、またはリモコンの ⊕ ボタンを押して表示されたメニューで設定値を選択します。

4



設定値を変更します。

本体の場合は、- または + ボタンを押して設定します。

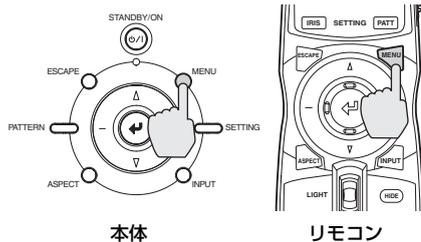
リモコンの場合は、Ⓜ ボタンを左右に傾けて設定します。

セレクトメニューが表示されたときは、項目を選択し、本体の ⊕ ボタン、またはリモコンの ⊕ ボタンを押して決定します。



1つ前の階層に戻るには、本体の [ESCAPE] ボタン、またはリモコンの [ESCAPE] ボタンを押すか、「戻る」を選択します。

5



本体

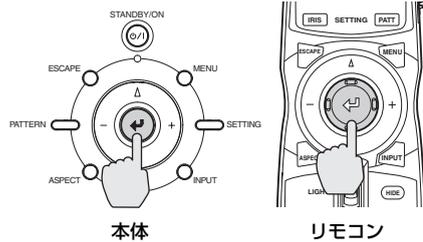
リモコン

メニューを終了します。

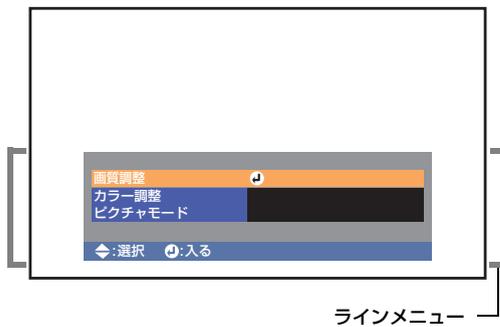
本体の [MENU] ボタン、またはリモコンの [MENU] ボタンを押します。

ラインメニューの呼び出しと操作

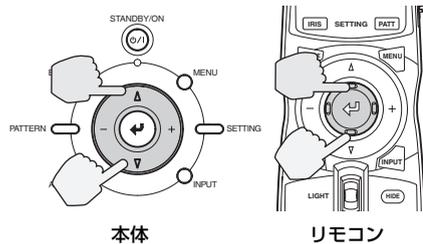
1



フルメニューが表示されていない状態で、本体の \odot ボタン、またはリモコンの \odot ボタンを押します。
ラインメニューが表示されます。



2



設定する項目を選択します。

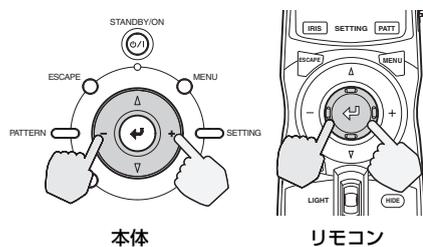
本体の場合は、 Δ または ∇ ボタンを押して項目を選択します。
リモコンの場合は、 \odot ボタンを上下に傾けて項目を選択します。

ラインメニューの内容が切り替わります。



設定を実行したり下の階層へ続くサブ項目は、項目名の後ろに \odot と表示されています。この場合は本体の \odot ボタン、またはリモコンの \odot ボタンを押して表示されたメニューで設定値を選択します。

3



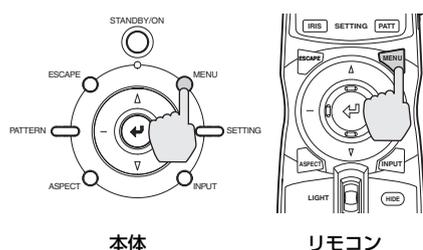
設定値を変更します。

本体の場合は、 $-$ または $+$ ボタンを押して選択します。
リモコンの場合は、 \odot ボタンを左右に傾けて設定します。



1 つ前の階層に戻るには、本体の [ESCAPE] ボタン、またはリモコンの \square ボタンを押すか、「戻る」を選択します。

4



メニューを終了します。

本体の [MENU] ボタン、またはリモコンの \square ボタンを押します。

困ったときに

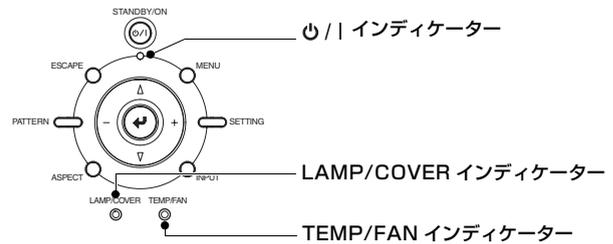
ここでは、トラブルの解決法について説明しています。

故障かなと思ったら	38
インディケータを確認してもわからないとき	40
• 映像に関するトラブル.....	40
• 投写開始時のトラブル.....	44
• リモコンでのトラブル.....	44

故障かなと思ったら

本機は、次の3種類のインディケータで本機の状態を知らせています。下表でインディケータの状態と対処方法を確認してください。

※電源を入れたときに、インディケータが点灯しないときは、電源コードが正しく接続されていないか、または、電気が供給されていません。



インディケータの状態とその対処方法については、以下の表を参照してください。

● : 点灯 ✨ : 点滅 ○ : 消灯

インディケータの状態	状態	原因と処置	参照ページ
赤 ● 赤 ✨ 赤 ✨ (power icon) LAMP/COVER TEMP/FAN	内部異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点（本書裏表紙に記載）に修理を依頼してください。	
赤 ● 赤 ✨ 赤 ✨ (power icon) LAMP/COVER TEMP/FAN	ファン異常 / センサー異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点（本書裏表紙に記載）に修理を依頼してください。	
赤 ● 赤 ● 赤 ○ (power icon) LAMP/COVER TEMP/FAN	ランプ異常 / ランプカバー開状態	ランプが割れていないか、またはランプカバーが確実に取り付けられているか確認します。ランプが割れていなければランプを再セットし、本機の電源を入れます。 ランプを再セットしても直らないときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点（本書裏表紙に記載）に修理を依頼してください。 ランプが割れているときは、お買い上げの販売店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点（本書裏表紙に記載）に、ランプ交換を依頼してください。	p.49
赤 ● 赤 ✨ 赤 ○ (power icon) LAMP/COVER TEMP/FAN	ランプ点灯失敗	ランプが割れていないか、またはランプカバーが確実に取り付けられているか確認します。ランプが割れていなければランプを再セットし、本機の電源を入れます。 ランプを再セットしても直らないときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点（本書裏表紙に記載）に修理を依頼してください。 ランプが割れているときは、お買い上げの販売店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点（本書裏表紙に記載）に、ランプ交換を依頼してください。	p.49
赤 ● 赤 ○ 赤 ● (power icon) LAMP/COVER TEMP/FAN	内部高温異常（オーバーヒート）	ランプが自動的に消灯し投写できなくなります。約5分間そのままの状態待ちます。 ●壁際に設置している場合は、壁から20cm以上離してください。 ●エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除をしてください。 電源を入れたとき改善されない場合は、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜いてください。お買い上げの販売店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点（本書裏表紙に記載）に修理を依頼してください。	p.47 『セットアップガイド』
ランプ ✨ 赤 ○ 赤 ✨ LAMP/COVER TEMP/FAN	高速冷却中	（異常ではありません。） このまま投写を続けられますが、さらに高温になると投写を自動的に停止します。 内部高温異常と同様の対処をしてください。  インディケータは、そのときのプロジェクターの状態により異なります。	p.47 『セットアップガイド』
ランプ ✨ 赤 ○ 赤 ○ LAMP/COVER TEMP/FAN	ランプの交換時期が近い	（異常ではありません。） ランプの交換時期です。すみやかに新しいランプに交換してください。 ご使用を続けるとランプが破裂する恐れがあります。  インディケータは、そのときのプロジェクターの状態により異なります。	p.49

インディケーター の状態	状態	原因と処置	参照 ページ
赤/橙 ④/1 ● LAMP/COVER TEMP/FAN ○ ○	スタンバイ状態	(異常ではありません。) 本体の [STANDBY/ON] ボタン、またはリモコンの [④/1] ボタンを押すとウォームアップ終了後に投写を開始します。	p.6
緑 ④/1 ☀ ○ ○	ウォームアップ中	(異常ではありません。) ウォームアップの時間は約 30 秒です。そのまましばらくお待ちください。緑色の点滅が点灯に変わります。 ウォームアップ中は電源オフの操作は無効になります。	p.7
緑 ④/1 ● ○ ○	投写中	(異常ではありません。) 通常動作中です。	p.7
赤/橙 ④/1 ☀ ○ ○	クールダウン中	(異常ではありません。) クールダウンは約 30 秒で終了します。クールダウンが終了すると、スタンバイ状態になります。 クールダウン中はリモコン、操作パネルからの操作は無効になります。	p.9



- インディケーターは異常を示してないのに、投写映像が異常のときは、次ページの「インディケーターを確認してもわからないとき」をご覧ください。
- 各インディケーターがこの表にない状態のときは、販売店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点（本書裏表紙に記載）にお問い合わせください。

インディケーターを確認してもわからないとき

まず下記をご覧になり、どのトラブルに該当するかを確認し、参照先で詳細な内容をご覧ください。

映像に関するトラブル

<ul style="list-style-type: none"> ● 映像が表示されない ☞ 下記参照 投写を開始しない・真っ黒の映像になる・青い映像になるなど… ● 「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される ☞ p.41 ● 「映像信号が入力されていません。」と表示される ☞ p.41 ● ぼやける、ピントが合わない ☞ p.41 ● ノイズが入る、乱れる ☞ p.42 ノイズが入る・乱れる・市松模様のようにモノクロのチェックになるなど… 	<ul style="list-style-type: none"> ● 切れる（大きい）、小さい ☞ p.42 映像の一部分しか投写されないなど… ● 色合いが違う ☞ p.43 全体が赤紫がかっている・緑色がかっている・モノクロになる・色がくすむなど… (コンピューターのモニターや液晶画面とは色の再現性が異なるため、本機での投写映像とモニターでの表示の色合いは必ずしも一致しませんが、異常ではありません。) ● 暗い ☞ p.43 ● 自動的に投写が消える ☞ p.43 ● 投写映像に縦方向の線が表示される ☞ p.43
--	---

投写開始時のトラブル

- 電源が入らない [☞ p.44](#)

リモコンでのトラブル

- リモコンで操作できない [☞ p.44](#)

映像に関するトラブル

●映像が表示されない

電源を入れましたか？	リモコンの [ON] ボタンか、操作パネルの [STANDBY/ON] ボタンを押します。
電源を入れる前に、 o / インディケーターがオレンジ色で点灯していましたか？	本機の電源コードを抜いて、接続し直します。 ☞ p.6 電気が供給されているか、ブレーカなどを確認します。
ハイド画面になっていませんか？	リモコンの [HIDE] ボタンを押してハイド画面状態を解除します。
映像信号は入力されていますか？	接続している機器の電源が入っているか確認します。メニューの「メッセージ表示」を「オン」に設定すると映像信号に関するメッセージが表示されます。 ☞ 「設置」→「オンスクリーン表示設定」→「メッセージ表示」 p.32
映像の信号形式の設定は合っていますか？	メニューの「ビデオ信号方式」で機器の信号方式に合ったものに設定してください。 ☞ 「設置」→「入力信号選択」→「ビデオ信号方式」 p.33
メニューの設定が間違っていないですか？	全初期化してみてください。 p.33
接続の作業を、本機やコンピューターの電源が入っている状態で行いましたか？ コンピューター投写時のみ	電源を入れた状態で接続を行うと、コンピューターの映像信号を外部に切り替える [Fn] (ファンクション) キーが使えないことがあります。接続しているコンピューターと本機の電源を入れ直してください。
コンピューター表示の出力先が、コンピューター付属の画面のみに設定されていませんか？ コンピューター投写時のみ	外部に映像信号を出力させます。外部のみ、または外部と付属のモニター両方同時に出力されるように設定を切り替えてください。 ☞ コンピューターの『取扱説明書』「外部出力のしかた」や「外付けモニターへ出力のしかた」など



●「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される

映像の信号形式の設定は合っていますか？	コンポジットビデオ ▶▶、S-ビデオ ▶▶ 入力時 メニューの「ビデオ信号方式」を「オート」に設定していても投写できないときは、機器に合った信号方式に設定します。 ☞ 「設置」→「入力信号選択」→「ビデオ信号方式」 p.33
映像信号の周波数や解像度が対応するモードですか？ コンピューター投写時のみ	INPUT A 端子、INPUT B 端子に接続している場合 接続ケーブルの各コネクタを正しく端子に差し込んでいるか確認します。 ☞ 『セットアップガイド』 メニューの「入力解像度」で入力中の映像信号を確認し、「対応解像度一覧」で対応しているか確認してください。 ☞ 「情報」→「入力解像度」 p.27 ☞ 対応解像度一覧 p.55

●「映像信号が入力されていません。」と表示される

ケーブル類が正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ☞ 『セットアップガイド』
接続した映像入力端子を正しく選択していますか？	リモコンの (D4)、(A)、(B)、(HDMI)、(SVIDEO)、(VIDEO) ボタンか、操作パネルの [INPUT] ボタンで映像を切り替えます。 ☞ p.7
接続している機器の電源は入っていますか？	それぞれの機器の電源を入れます。
プロジェクターに映像信号が出力されていますか？ ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ	映像信号がコンピューターの液晶モニターや付属モニター以外（外部）にも出力されるように切り替えます。外部に映像信号を出力すると、液晶モニターや付属モニターに表示されないモデルもあります。 ☞ コンピューターの『取扱説明書』「外部出力のしかた」や「外付けモニターへ出力のしかた」など 本機やコンピューターの電源を入れた状態で接続を行うと、コンピューターの映像信号を外部に切り替える [Fn] (ファンクション) キーが使えないことがあります。本機およびコンピューターの電源を入れ直してください。 ☞ p.7

●ぼやける、ピントが合わない

ピント調整しましたか？	ピント調整を行います。 ☞ p.15
レンズキャップが付いていませんか？	レンズキャップを外します。
投写距離は最適ですか？	投写距離の推奨範囲は 16:9 スクリーンサイズの場合は 87cm ~ 1365cm、4:3 スクリーンサイズの場合は 108cm ~ 1672cm です。この範囲で設置してください。 ☞ 『セットアップガイド』
台形補正の調整値を大きくしていませんか？	本機の傾きを小さくして台形補正の調整値を小さくしてください。 ☞ p.13
レンズが結露していませんか？	寒い部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだり、急激に暖房したときなど、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。ご使用になる 1 時間くらい前に使用する部屋に設置するようにします。結露してしまったときは、電源コードを抜いてしばらくそのまま放置してください。

●ノイズが入る、乱れる

<p>映像の信号形式の設定は合っていますか？</p>	<p>コンポジットビデオ▶、S-ビデオ▶ 入力時 メニューの「ビデオ信号方式」を「オート」に設定していても投写できないときは、機器に合った信号方式に設定します。 ☞「設置」→「入力信号選択」→「ビデオ信号方式」 p.33</p>
	<p>INPUT A 端子、INPUT B 端子に接続している場合 接続ケーブルの各コネクタを正しく端子に差し込んでいるか確認します。 ☞『セットアップガイド』</p>
<p>ケーブル類が正しく接続されていますか？</p>	<p>投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ☞『セットアップガイド』</p>
<p>ケーブルを延長していませんか？</p>	<p>ケーブルを延長するとノイズが入ることがあります。増幅機器などを接続して確認してください。</p>
<p>「同期▶・トラッキング▶」は正しく調整されていますか？ コンピューター投写時のみ</p>	<p>本機は自動調整機能で最適な状態で投写します。ただし信号によっては、自動調整を行っても正しく調整されないものもあります。この場合は、メニューの「トラッキング」、「同期」で調整します。 ☞「画質」→「画質調整」→「トラッキング」、「同期」 p.28</p>
<p>解像度の選択は正しいですか？ コンピューター投写時のみ</p>	<p>本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 ☞「対応解像度一覧」 p.55、コンピューターの『取扱説明書』など</p>

●切れる（大きい）、小さい

<p>アスペクトは正しく選択していますか？</p>	<p>リモコンの  ボタンか、操作パネルの [ASPECT] ボタンを押して入力信号に合ったアスペクトを選択してください。 ☞ p.18 字幕付きの映像を「ズーム」で投写している場合は、メニューの「ズーム字幕調整」で調整します。☞ p.31</p>
<p>「表示位置」は正しく調整されていますか？</p>	<p>メニューの「表示位置」で調整します。 ☞「設置」→「画面調整」→「表示位置」 p.31</p>
<p>デュアルディスプレイの設定をしていませんか？ コンピューター投写時のみ</p>	<p>接続しているコンピューターのコントロールパネルの「画面のプロパティ」で、デュアルディスプレイの設定をしていると、プロジェクターでコンピューター画面の映像が半分くらいしか表示できません。コンピューター画面の映像をすべて表示する場合は、デュアルディスプレイの設定を解除します。 ☞コンピューターのビデオドライバーの『取扱説明書』</p>
<p>解像度の選択は正しいですか？ コンピューター投写時のみ</p>	<p>本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 ☞「対応解像度一覧」 p.55、コンピューターの『取扱説明書』など</p>



●色合いが違う

映像の信号形式の設定は合っていますか？	<p>コンポジットビデオ ▶▶、S-ビデオ ▶▶入力時 メニューの「ビデオ信号方式」を「オート」に設定していても投写できないときは、機器に合った信号方式に設定します。 ☞「設置」→「入力信号選択」→「ビデオ信号方式」 p.33</p> <p>INPUT A 端子、INPUT B 端子、D4 端子に接続している場合 メニューの「入力信号選択」を、接続している機器の信号方式に合わせて設定します。 ☞「設置」→「入力信号選択」 p.33 リモコンの (A)、(B)、(D4) ボタンで切り替えることもできます。 ☞『セットアップガイド』</p>
ケーブル類が正しく接続されていますか？	<p>投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ☞『セットアップガイド』</p>
コントラストは正しく調整されていますか？	<p>メニューの「コントラスト」、または「白レベル」を調整してください。 ☞「画質」→「画質調整」→「入力調整」 p.28</p>
適切なカラー調整に設定されていますか？	<p>メニューの「カラー調整」を調整してください。 ☞「画質」→「カラー調整」 p.29</p>
色の濃さ、色合いは正しく調整されていますか？	<p>メニューの「色の濃さ」、「色合い」を調整してください。 ☞「画質」→「画質調整」→「色の濃さ」、「色合い」 p.28</p>
ビデオ機器投写時のみ	

●暗い

映像の明るさは正しく設定されていますか？	<p>メニューの「入力調整」、「アイリス」を設定してください。 ☞「画質」→「画質調整」→「入力調整」、「アイリス」 p.28</p>
コントラストは正しく調整されていますか？	<p>メニューの「コントラスト」、または「白レベル」を調整してください。 ☞「画質」→「画質調整」→「入力調整」 p.28</p>
ランプの寿命ではありませんか？	<p>ランプの寿命が近づくと映像が暗くなったり、色合いが悪くなります。新しいランプと交換してください。☞ p.49</p>

●自動的に投写が消える

「スリープモード」が働いていませんか？	<p>映像信号が入らない状態で放置すると、ランプが自動的に消灯し、スタンバイ状態になることがあります。リモコンの (S/A) ボタンか、操作パネルの [STANDBY/ON] ボタンを押すと電源が入ります。「スリープモード」を働かせないときは設定を「オフ」にします。 ☞「設置」→「動作設定」→「スリープモード」 p.31</p>
---------------------	---

●投写映像に縦方向のノイズが表示される

本機を長い期間使い続けると、投写映像に縦方向のノイズが表示されることがあります。	<p>液晶パネル調整メニューでグレースケールの明色と暗色の調整をしてください。 ☞「設置」→「動作設定」→「液晶パネル調整」 p.32,52</p>
--	--

投写開始時のトラブル

●電源が入らない

電源を入れましたか？	リモコンの  ボタンか、操作パネルの [STANDBY/ON] ボタンを押します。
「キーロック」を「オン」に設定していませんか？	メニューの「キーロック」を「オン」に設定していると、操作パネルのボタンはすべて無効になります。リモコンの  ボタンを押します。 ☞ 「設置」→「動作設定」→「ロック設定」→「キーロック」 p.32
 /  インディケータはオレンジ色で点灯していますか？	本機の電源コードを抜いて、接続し直します。☞ p.6 電気が供給されているか、ブレーカなどを確認します。
電源コードを触ると、インディケータが灯いたり消えたりしませんか？	本機の電源を切り、電源コードを抜いてから差し直します。それでも直らないときは、電源コードが故障している可能性があります。ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点に修理を依頼してください。☞ 裏表紙

リモコンでのトラブル

●リモコンで操作できない

リモコンの発光部をプロジェクターのリモコン受光部に向けて操作していますか？	リモコン受光部に向かって操作してください。操作可能範囲は、左右 30°、上下 30° です。 ☞ 『セットアップガイド』
プロジェクターから離れすぎていませんか？	操作可能距離は、約 7m です。 ☞ 『セットアップガイド』
リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の強い光が当たっていませんか？	強い光などがリモコン受光部にあたる場所を避けて設置してください。
乾電池が消耗していたり、乾電池の向きを間違えてセットしていませんか？	新しい乾電池を正しい向きでセットします。 ☞ 『セットアップガイド』

付 録

ここでは、メンテナンス方法など、本機を今後も長くご使用いただくための補足的な知識について説明しています。

お手入れの方法	46
• 各部の掃除	46
・ 本体の掃除	46
・ レンズの掃除	46
・ エアーフィルターの掃除	47
・ エアーフィルターの取り外し	47
• 消耗品の交換	48
・ ランプの交換時期	48
・ ランプの交換方法	49
・ ランプ点灯時間の初期化	51
• 投写映像に縦線ノイズが目立つようになったら	52
オプション品一覧	54
対応解像度一覧	55
• コンポーネントビデオ /RGB ビデオ	55
• コンポジットビデオ /S ビデオ	55
• Analog-RGB/HDMI 端子からの入力信号	56
• HDMI 端子入力信号フォーマット対応範囲	56
仕様一覧	57
外形寸法図	58
各部の名称と働き	59
• 前面 / 上面	59
• 本体操作パネル	60
• 背面	61
• 底面	61
• リモコン	62
用語解説	63
索引	64

お手入れの方法

お手入れの方法や消耗品の交換などのメンテナンスについて説明します。

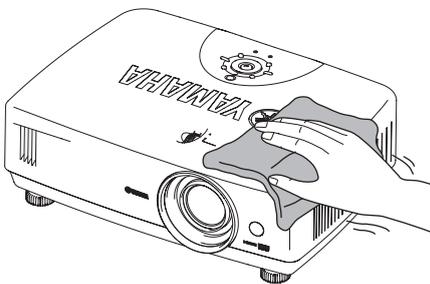
各部の掃除

本体が汚れたり、映像の写りが悪くなったら掃除をしてください。



掃除にあたっては、本書の「安全上のご注意」を必ずお読みになり、取り扱い上の注意を確認してから行ってください。

本体の掃除

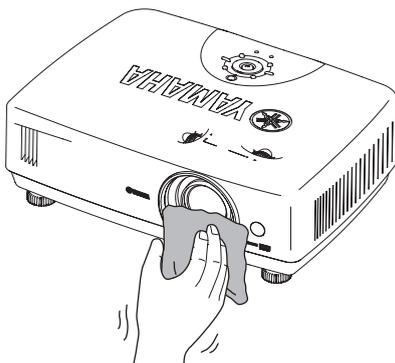


本体の汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。
汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。



ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。ケースが変質したり、塗料がはげたりすることがあります。

レンズの掃除

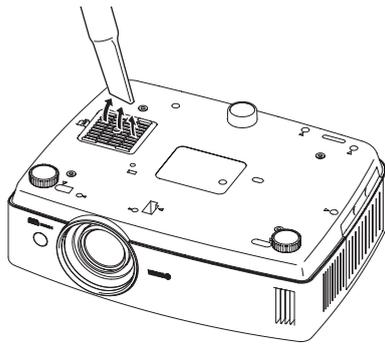


レンズの汚れは、市販のブローワーやレンズクリーニングペーパーなどで軽くふき取ってください。



レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

エアフィルターの掃除



エアフィルターにホコリがたまっていたり、「内部温度が上昇しています。吸排気口付近の障害物を取り除き、エアフィルターの掃除や交換を行ってください。」とメッセージが表示されたときは、エアフィルターの掃除を行ってください。

エアフィルターのホコリは、本機を裏返して、掃除機で吸い取ります。

※水や洗剤でエアフィルターを洗淨しないでください。



注意

- エアフィルターにホコリがたまると、本機内部の温度が上昇して故障や光学部品の早期劣化の原因となります。約3ヶ月に一度はエアフィルターの掃除を行うことをお勧めします。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除を行ってください。
- 上記のエアフィルター交換メッセージが頻繁に表示されるようになったら、ヤマハ電気音響製品サービス拠点（本書裏表紙に記載）にご相談ください。

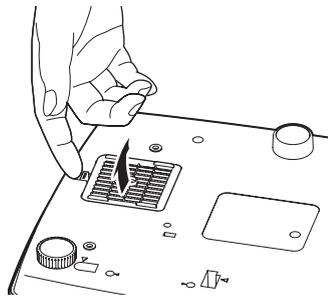
エアフィルターの取り外し

汚れがひどいときは、必要に応じてエアフィルターを取り外して掃除してください。

1

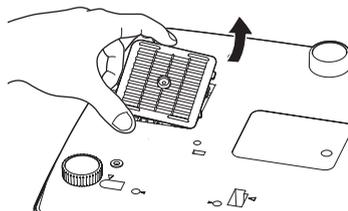
電源を切り、クールダウンが終了するのを待ち（約 30 秒間）、電源コードを外します。

2



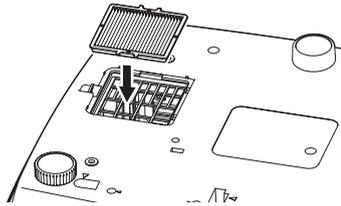
エアフィルターカバーを外します。
エアフィルターカバーのつまみに指をかけて、上に引きます。

3



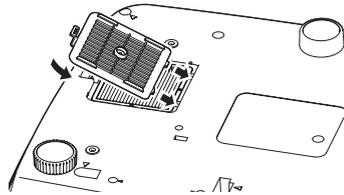
エアフィルターを取り外します。
片方のリブに指をかけて持ち上げます。
掃除機でホコリを吸い取ります。

4



エアフィルターを取り付けます。
向きを合わせて取り付けます。

5



エアフィルターカバーを取り付けます。

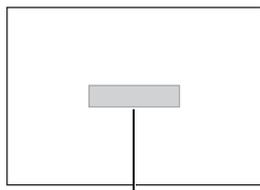
消耗品の交換

ランプの交換方法について説明します。

ランプの交換時期

次の場合はランプを交換してください。

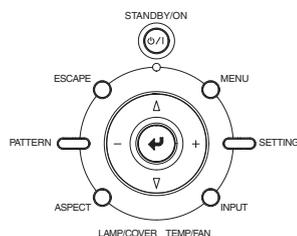
- 投写を開始したときに、「ランプを交換してください」とメッセージが表示されたとき



メッセージが表示されます

メッセージは 30 秒間表示されます。
30 秒過ぎると、メッセージが解除されます。

- LAMP/COVER インジケーターがオレンジ色で点滅、または赤色で点灯したとき



オレンジ色で点滅または赤色で点灯

- 初期に比べ、明るさや画質が落ちたり、チラツキ（フリッカー）が増えたとき



- 初期の明るさや画質を維持するため、使用時間が最短で約 1600 時間を経過すると、ランプ交換メッセージが表示されます。メッセージの表示時間はランプパワー設定やピクチャモード設定などお使用の状況により変わります。
交換時期を超えて使い続けると、ランプが破裂する可能性が一段と高くなります。ランプ交換のメッセージが表示されたら、まだランプが点灯する状態でも、すみやかに新しいランプと交換してください。
- 個々のランプの特性や使用条件などで、メッセージが表示される前に暗くなったり、点灯しなくなるものもあります。交換用ランプをあらかじめ準備しておくことをお奨めします。
- 交換用ランプはお買い上げの販売店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点（本書裏表紙に記載）にご相談ください。

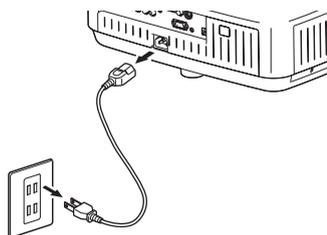
ランプの交換方法



注意

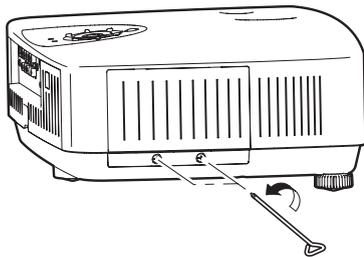
- ランプが点灯しなくなり交換する場合は、ランプが割れている可能性があります。本機を天吊りで使用していてランプ交換を行う場合は、天吊りユニットから外して交換してください。
- ランプが十分冷えてからランプカバーを外してください。ランプが十分冷えるには「クールダウン」後、約 1 時間必要です。

1



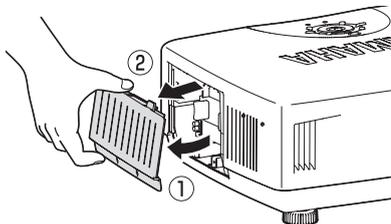
電源を切りクールダウンが終了するのを待ち（約 30 秒間）、電源コードを外します。
※ランプが冷えるまで待ちます。（約 1 時間）。

2



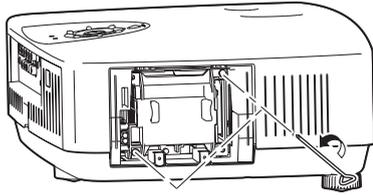
ランプカバー固定ねじをゆるめます。

3



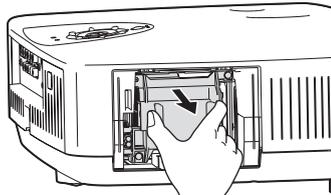
ランプカバーを外します。
ランプカバーを下から少し持ち上げるように外します。

4



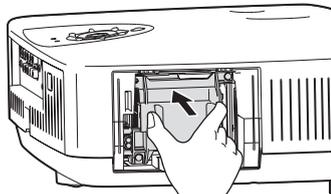
ランプ固定ねじをゆるめます。

5



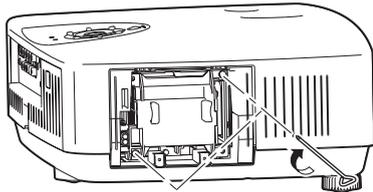
古いランプを取り出します。
ランプをまっすぐ引き抜きます。

6



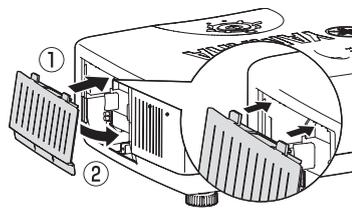
新しいランプを取り付けます。
ランプの向きを合わせて、確実に押し込みます。

7



ランプ固定ねじをしっかりと締めます。

8



ランプカバーを取り付け、ランプカバー固定ねじを締めます。



注意

- ランプは確実に取り付けてください。本機は安全のため、ランプカバーを開けると自動的にランプが消灯します。ランプやランプカバーの取り付けが不十分だとランプが点灯しません。
- ランプには水銀が含まれています。使用済みのランプは、地域の廃棄ルール（蛍光灯と同じ）に従って廃棄してください。

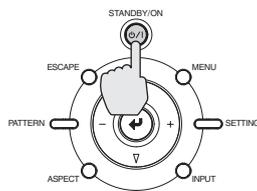
ランプ点灯時間の初期化

ランプ交換をした後は、必ずランプ点灯時間の初期化をしてください。
本機にはランプ点灯時間のカウンタが内蔵されており、このカウンタを元にランプ交換のメッセージを表示します。

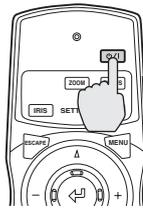


ランプ点灯時間の初期化は、ランプを交換したとき以外は行わないでください。ランプの交換時期が正しく表示されなくなります。

1



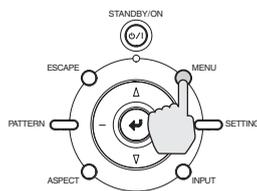
本体



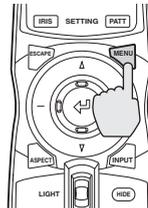
リモコン

本体の [STANDBY/ON] ボタン、またはリモコンの ボタンを押して電源を入れます。

2



本体



リモコン

本体の [MENU] ボタン、またはリモコンの ボタンを押します。
メニューが表示されます。

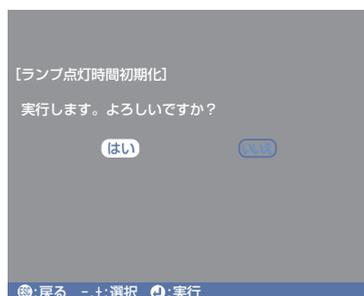
3



「初期化」-「ランプ点灯時間初期化」の項目を選択します。

本体の ボタン、またはリモコンの ボタンを押します。

4



ランプ点灯時間を初期化します。

「はい」を選択し、本体の ボタン、またはリモコンの ボタンを押します。

投写映像に縦線ノイズが目立つようになったら

投写映像に縦方向のノイズが出ることがあります。この縦線が気になる場合は、以下の操作で調整することができます。

例

縦線ノイズが表示されている映像



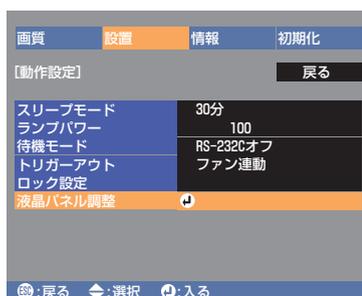
調整後の映像



以下の操作を行うときは、次の点にご留意ください。

- 電源をオンにしてランプ点灯後、約 10 分経過してから下記の操作を始めてください。
- 下記の調整を行う際は、部屋を暗くして行うとより正確に調整が行えます。
- 映像機器を接続していない状態でも、調整できます。
- 調整後、使い続けていくうちに、また縦線ノイズが気になってきたときは調整を繰り返すことでクリアな投写映像を保持できます。

1



本体の [MENU] ボタン、またはリモコンの

 ボタンを押します。

メニューが表示されます。

「設定」 - 「動作設定」 - 「液晶パネル調整」を選択します。

2

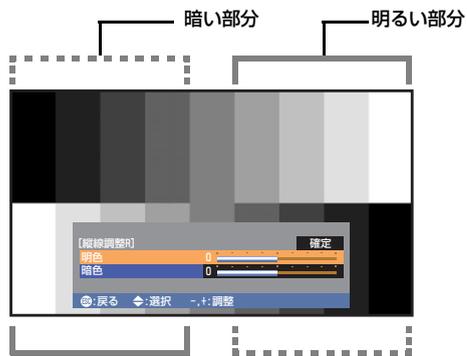


R/G/B の各色に対して縦線調整を実行します。

まず、「縦線調整 R」を選択し、本体の  ボタン、またはリモコンの  ボタンを押します。

赤色の階調画面が表示されます。

3



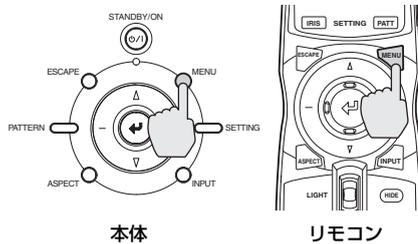
階調画面を確認しながら、縦線ノイズが目立つ方から調整します。明るい部分の縦線ノイズが目立つ場合は、まず「明色」の調整をします。

その後、階調画面を確認しながら、暗い部分の縦線ノイズが改善されるように「暗色」の調整をします。両方の調整が終了したら、「確定」を選択し、本体の  ボタン、またはリモコンの  ボタンを押します。

4

手順の2～3を繰り返して「縦線調整G」と「縦線調整B」を行います。

5



すべての調整が終了したら、本体の [MENU] ボタン、またはリモコンの  ボタンを押してメニューを終了します。

オプション品一覧

下記のオプション品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。オプション品の販売は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

交換ランプカートリッジ	PJL-520
-------------	---------

使用済みランプと交換します。

天吊金具（低天井用）※	PMT-L51
-------------	---------

本機を低天井に取り付けるときに使います。

天吊金具（高天井用）※	PMT-H55
-------------	---------

本機を高天井に取り付けるときに使います。

※天吊り設置には特別な技術が必要となります。お買い求めいただいた販売店にご相談ください。

対応解像度一覧

オーバースキャンの設定により、値が少し異なります。

コンポーネントビデオ / RGB ビデオ

4:3 16:9 : アスペクト 単位: ドット

信号	解像度	アスペクトモード					
		ノーマル	スクイーズ	ズーム	スルー	スクイーズスルー	スマートズーム
SDTV▶▶ (480i,60Hz) (D1)	640 × 480 (640 × 360) (75°-60時)	960 × 720 4:3	1280 × 720 16:9	1280 × 720 16:9	596 × 446 4:3	794 × 446 16:9	1280 × 760 16:9
SDTV (576i,50Hz)	768 × 576 (768 × 432) (75°-50時)	960 × 720 4:3	1280 × 720 16:9	1280 × 720 16:9	708 × 528 4:3	944 × 528 16:9	1280 × 760 16:9
SDTV(480p) (D2)	640 × 480 (640 × 360) (75°-60時)	960 × 720 4:3	1280 × 720 16:9	1280 × 720 16:9	596 × 446 4:3	794 × 446 16:9	1280 × 760 16:9
SDTV (576p)	768 × 576 (768 × 432) (75°-60時)	960 × 720 4:3	1280 × 720 16:9	1280 × 720 16:9	708 × 528 4:3	944 × 528 16:9	1280 × 760 16:9
HDTV▶▶ (720p)16:9 (D4)	1280 × 720	1280 × 720 16:9	-	-	1176 × 664 16:9	-	-
HDTV (1080i)16:9 (D3)	1920 × 1080	1280 × 720 16:9	-	-	-	-	-

コンポジットビデオ / S ビデオ

4:3 16:9 : アスペクト 単位: ドット

信号	解像度	アスペクトモード					
		ノーマル	スクイーズ	ズーム	スルー	スクイーズスルー	スマートズーム
TV(NTSC▶▶)	640 × 480 (640 × 360) (75°-60時)	960 × 720 4:3	1280 × 720 16:9	1280 × 720 16:9	596 × 446 4:3	794 × 446 16:9	1280 × 720 16:9
TV (PAL▶▶, SECAM▶▶)	768 × 576 (768 × 432) (75°-60時)	960 × 720 4:3	1280 × 720 16:9	1280 × 720 16:9	708 × 528 4:3	944 × 528 (16:9)	1280 × 720 16:9

Analog-RGB/HDMI 端子からの入力信号

単位：ドット

信号	解像度	アスペクトモード					
		ノーマル	スクイーズ	ズーム	スルー	スクイーズスルー	スマートズーム
VGA▶▶60, SDTV▶▶ (480p)	640 × 480 (640 × 360) (7" - 14時)	960 × 720	1280 × 720	1280 × 720	640 × 480	853 × 480	1280 × 720
VESA 72/75/85	640 × 480 (640 × 360) (7" - 14時)	960 × 720	1280 × 720	1280 × 720	640 × 480	853 × 480	1280 × 720
SVGA▶▶56/ 60/72/75/	800 × 600 (800 × 450) (7" - 14時)	960 × 720	1280 × 720	1280 × 720	800 × 600	1066 × 600	1280 × 720
XGA▶▶ 43i/60/70/ 75	1024 × 768 (1024 × 576) (7" - 14時)	960 × 720	1280 × 720	1280 × 720	-	-	1280 × 720
MAC13"	640 × 480	960 × 720	1280 × 720	1280 × 720	640 × 480	853 × 480	1280 × 720
MAC16"	832 × 624	960 × 720	1280 × 720	1280 × 720	832 × 624	1109 × 624	1280 × 720
MAC19"	1024 × 768	960 × 720	1280 × 720	1280 × 720	-	-	1280 × 720
SDTV (480i,60Hz)	640 × 480 (640 × 360) (7" - 14時)	960 × 720	1280 × 720	1280 × 720	640 × 480	853 × 480	1280 × 720
SDTV (576i,50Hz)	768 × 576 (768 × 432) (7" - 14時)	960 × 720	1280 × 720	1280 × 720	768 × 576	1024 × 576	1280 × 720
SDTV (576p)	768 × 576 (768 × 432) (7" - 14時)	960 × 720	1280 × 720	1280 × 720	768 × 576	1024 × 576	1280 × 720
HDTV (720p)	1280 × 720	1280 × 720	-	-	1280 × 720	-	-
HDTV (1080i)	1920 × 1080	1280 × 720	-	-	-	-	-

MAC 信号は、アナログのみに対応しています。

■は、HDMI 端子からの入力信号に対応しています。

上記以外の信号が入力された場合でも、映像を投写できることがあります。ただし、この場合、機能が制限されることがあります。

HDMI 端子入力信号フォーマット対応範囲

- 640 × 480p@59.94/60Hz
- 1280 × 720p@59.94/60Hz
- 1920 × 1080i@59.94/60Hz
- 720 × 480p@59.94/60Hz
- 720(1440) × 480i@59.94/60Hz
- 1280 × 720p@50Hz
- 1920 × 1080i@50Hz
- 720 × 576p@50Hz
- 720(1440) × 576i@50Hz

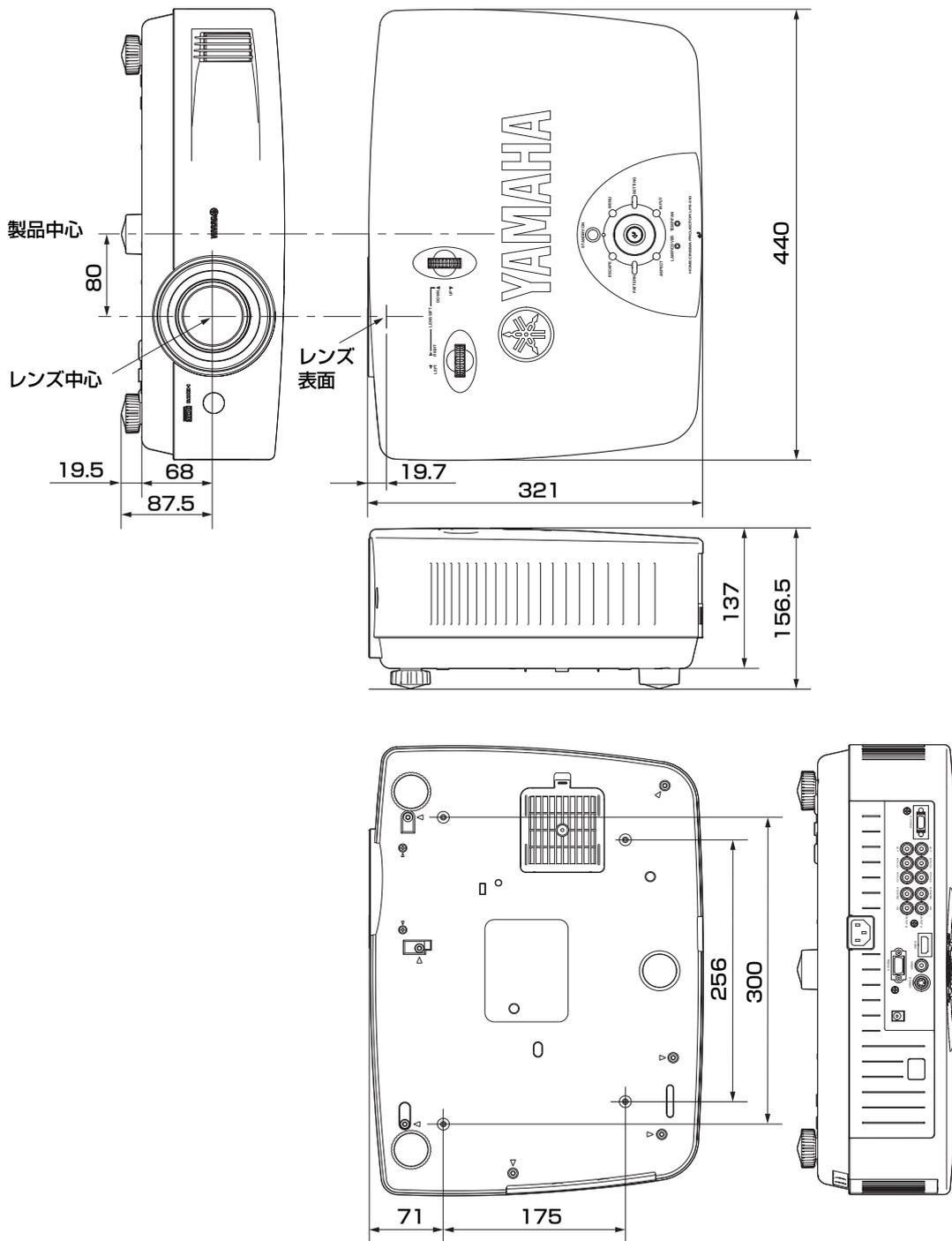
仕様一覧

商品名	ホームシネマプロジェクター LPX-510
外形寸法	幅 440 × 高さ 137 × 奥行 321mm(突起物含まず)
パネルサイズ	0.7 型
表示方式	ポリシリコン TFT アクティブマトリクス
駆動方式	フルライン 12 相ブロック順次書き込み
画素数	921,600 個(横 1280 × 縦 720 ドット) × 3
フォーカス調整	電動式
ズーム調整	電動式(約 1 : 1.5)
ランプ(光源)	UHE ランプ 定格 200W 型番 : P JL-520
電源	100V、50/60Hz AC 定格消費電力 290W スタンバイ時 : 0.4W (RS-232C オフ) 3W (RS-232C オン)
使用温度範囲	+ 5 °C ~ + 35 °C (ただし、結露のないこと)
保存温度範囲	- 10 °C ~ + 60 °C (ただし、結露のないこと)
質量	約 6.3kg
接続端子	HDMI 端子 : 1 系統 HDMI INPUT A 端子 : 1 系統 5RCA ピンジャック INPUT B 端子 : 1 系統 5RCA ピンジャック VIDEO 端子 : 1 系統 RCA ピンジャック S VIDEO 端子 : 1 系統 ミニ DIN 4pin D4 端子 : 1 系統 D4 RS-232C 端子 : 1 系統 D-Sub 9pin(オス) TRIGGER OUT 端子 : 1 系統 DC ジャック



本機には Pixelworks DNX™ の IC が搭載されています。

外形寸法図

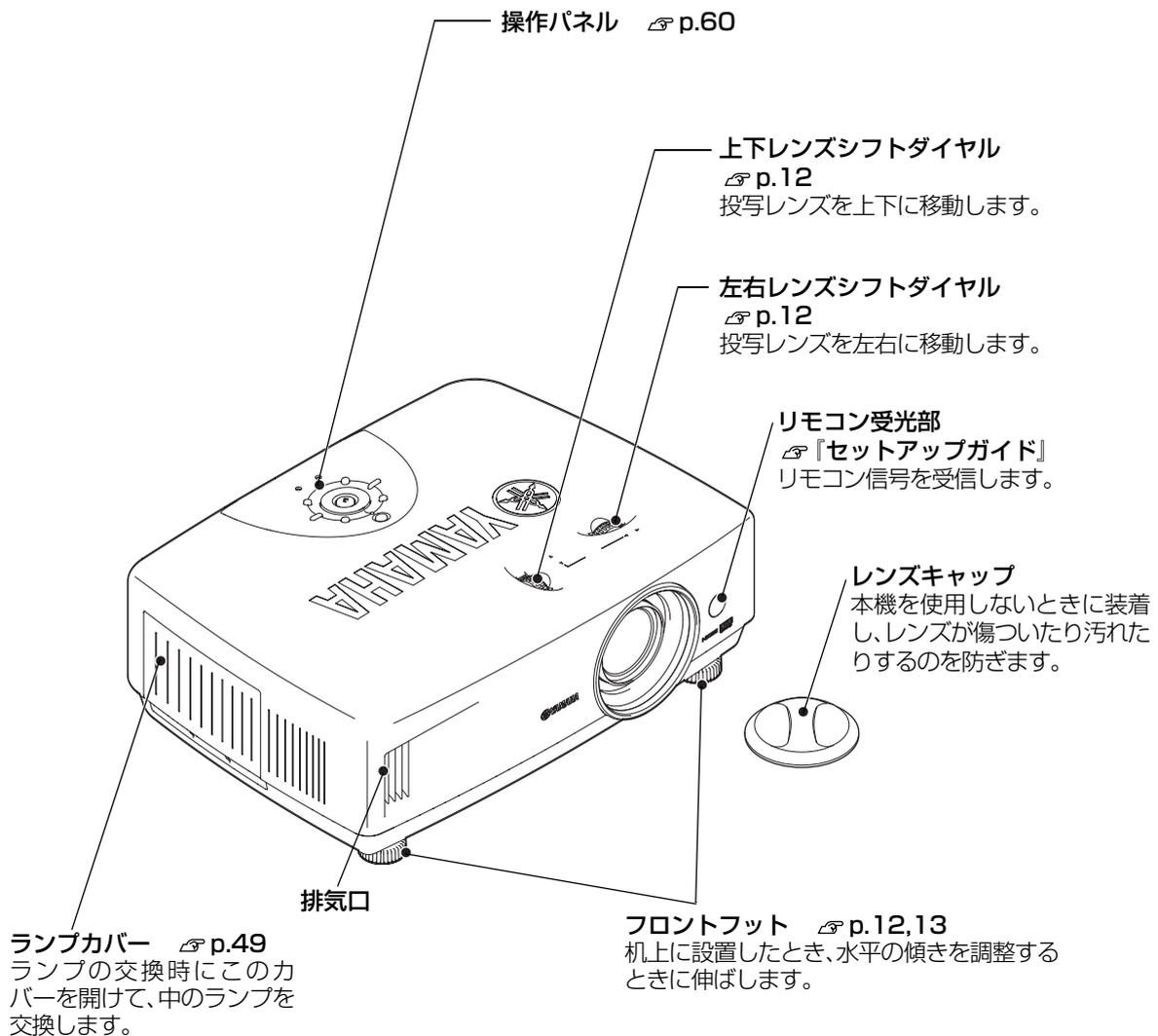


※レンズ中心=レンズシフトのデフォルト位置

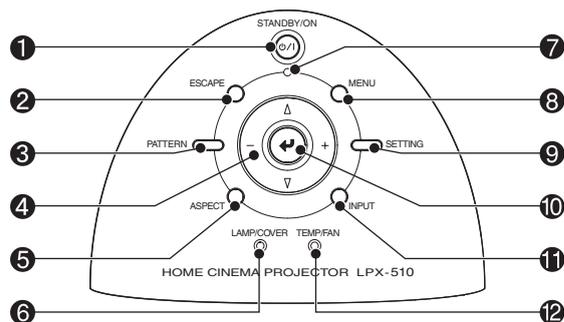
単位：mm

各部の名称と働き

前面 / 上面

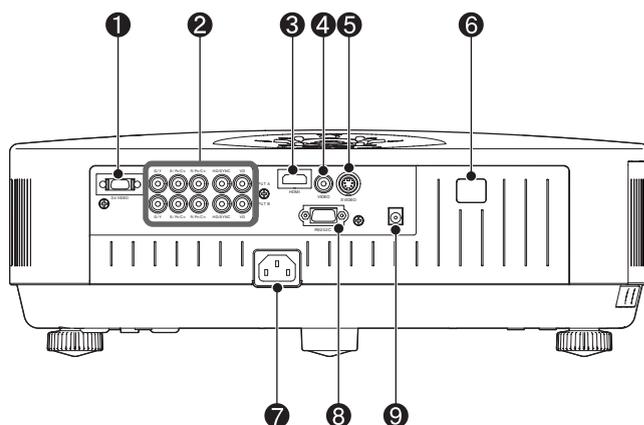


本体操作パネル



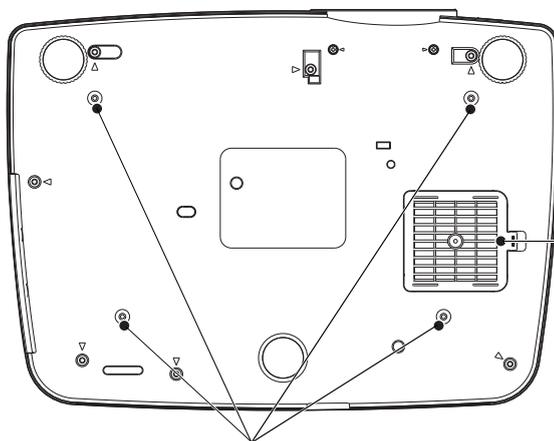
- ① [STANDBY/ON] ボタン [p.7,9](#)
本機の電源をオン / オフするときに押します。
- ② [ESCAPE] ボタン
[p.11,15,16,35,36](#)
メニューやセレクトメニュー表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。
- ③ [PATTERN] ボタン
[p.14](#)
テストパターンを選択するセレクトメニューを表示します。
- ④ Δ/▽/←/→+ ボタン
[p.11,13,15,18,34,35,36](#)
メニューの項目を選択したり、調整値を変更したりします。
- ⑤ [ASPECT] ボタン [p.18](#)
アスペクトを選択するセレクトメニューを表示します。
- ⑥ LAMP/COVER インディケータ
[p.38](#)
投写ランプの異常を色や点灯・点滅で示します。
- ⑦ 電源インディケータ [p.6,7,38](#)
本機の動作状態を色や点灯・点滅で示します。
- ⑧ [MENU] ボタン [p.17,24,34,35,36](#)
押すたびにメニューのフルメニューを表示 / 終了します。
- ⑨ [SETTING] ボタン [p.11,15,16](#)
レンズに関連する調整モードを選択します。押すたびに、ズーム→フォーカス→アイリスの順に調整モードが切り替わります。ロック設定されている調整モードは表示されません。
- ⑩ Home Cinema ボタン [p.14,17,18,25,34,35,36](#)
ラインメニューを表示します。
メニューやセレクトメニュー表示中は、メニュー項目などを選択し、次に進むときに押します。
- ⑪ [INPUT] ボタン [p.7](#)
映像ソースを選択するセレクトメニューを表示します。
- ⑫ TEMP/FAN インディケータ [p.38](#)
本機内部の温度異常を色や点灯・点滅で示します。

背面



- ① D4 VIDEO 端子
 『セットアップガイド』
 ビデオ機器のコンポーネントビデオ端子やD端子と接続します。
- ② INPUT A/INPUT B 端子
 『セットアップガイド』
 ビデオ機器のコンポーネントビデオ端子やRGB端子、コンピューターの映像出力端子と接続します。
- ③ HDMI 端子 『セットアップガイド』
 HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターと接続します。
- ④ VIDEO 端子 『セットアップガイド』
 ビデオ機器の一般的な映像端子と接続します。
- ⑤ S VIDEO 端子 『セットアップガイド』
 ビデオ機器のS-ビデオ端子と接続します。
- ⑥ リモコン受光部 『セットアップガイド』
 リモコン信号を受信します。
- ⑦ 電源端子 『p.6,9』
 電源コードを接続します。
- ⑧ RS-232C 端子
 RS-232Cケーブルでコンピューターと接続します。
 サービス用の端子で、通常は使いません。
- ⑨ TRIGGER OUT 端子 『p.31』
 外部機器制御用の信号出力です。

底面



エアフィルター（吸気口）

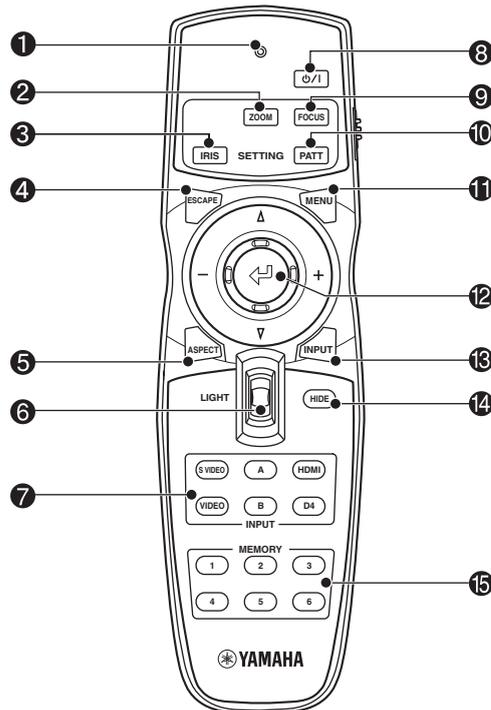
『p.47』

吸気時に、本機内部にホコリやゴミが入るのを防ぎます。定期的に掃除してください。

天吊固定部（4箇所） 『p.54』

天井から吊り下げて使うとき、オプションの天吊金具を取り付けます。

リモコン



- ① **インディケーター**
リモコン信号を出力しているときに発光します。
- ② **[ZOOM] ボタン** [p.11](#)
投写映像のサイズを調整するときに押します。
- ③ **[IRIS] ボタン** [p.16](#)
レンズの絞りにより、投写映像の明るさを調整するときに押します。
- ④ **[ESCAPE] ボタン** [p.35,36](#)
メニューやセレクトメニュー表示中に押しすと、1つ上の階層に戻ります。
- ⑤ **[ASPECT] ボタン** [p.18](#)
アスペクトを選択するセレクトメニューを表示します。
- ⑥ **[LIGHT] スイッチ** [『セットアップガイド』](#)
スイッチを上または下に倒すと [ESCAPE]、[ASPECT]、[MENU]、[INPUT] ボタンが点灯します。約 10 秒間経過すると自動的に消灯します。
- ⑦ **[INPUT] ボタン** [p.7](#)
入力端子をダイレクトに選択することができます。[A] または [B] ボタンは、押すたびに COMPONENT → RGB TV → RGB PC の順に「入力信号選択」設定が切り替わります。
- ⑧ **⏻/⏻ ボタン** [p.7,9](#)
本機の電源をオン / オフするときに押します。
- ⑨ **[FOCUS] ボタン** [p.15](#)
投写レンズの焦点を調整するときに押します。
- ⑩ **[PATT] ボタン** [p.14](#)
テストパターンを選択するセレクトメニューを表示します。
- ⑪ **[MENU] ボタン** [p.17,24,34,35,36](#)
押すたびにメニューのフルメニューを表示 / 終了します。
- ⑫ **⏪ ボタン** [p.11,14,15,16,17,18, 25,34,35,36](#)
押すと、ラインメニューを表示します。メニューが表示されているときは、ボタンを上、下、左右に傾けることでメニュー項目などを選択し、押すことで実行・決定します。
- ⑬ **[INPUT] ボタン** [p.7](#)
映像ソースを選択するセレクトメニューを表示します。
- ⑭ **[HIDE] ボタン** [p.32](#)
ボタンを押すたびに、映像を一時的に消す / 解除が切り替わります。消している間は、メニューの「設置」 - 「ハイド画面」で設定している状態になります。ただし、動画の場合は消している間も映像は進んでいますので、消したときの場面からは再開しません。
- ⑮ **[MEMORY] ボタン** [p.25](#)
メニューの「画質」 - 「メモリー保存」で登録した状態を呼び出し、投写映像に反映します。

用語解説

本書で使用している用語で、本文中に説明がなかったもの、あるいは難しいものを簡単に説明します。詳細に付いては市販の書籍などを利用してください。

DCDi 機能	Directional Correlational Deinterlacing の略で、ファロージャ社が開発した高画質回路の機能名称です。最先端のエッジカッティング技術でインターレース→プログレッシブ変換時のぎざぎざをなくし、スムーズで自然な画像を再現します。
HDMI	High Definition Multimedia Interface の略、HD 映像と、マルチチャンネルオーディオ信号をデジタル伝送する規格のことをいいます。HDMI はデジタル家電をターゲットにした規格であり、デジタル信号を圧縮せず高品質のまま転送でき、デジタル信号の暗号化機能もあります。
HDTV	High-Definition Television の略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 ・垂直解像度 720p、1080i 以上 （p はプログレッシブ走査、i はインターレース▶走査） ・画面のアスペクトは 16 : 9 ・ドルビーデジタル音声の受信、再生（あるいは出力）
NTSC	National Television Standards Committee の略で、地上波アナログカラーテレビ放送の方式の一つ。この方式は日本や北米、中南米で利用されています。
PAL	Phase Alternation by Line の略で、地上波アナログカラーテレビ放送の方式の一つ。この方式はフランス以外の西ヨーロッパ諸国をはじめ、中国などのアジア諸国やアフリカなどで利用されています。
SDTV	Standard Definition Television の略で、 <u>HDTV▶</u> の条件を満たさない標準テレビジョン放送のことです。
SECAM	SEquential Couleur A Memoire の略で、地上波アナログカラーテレビ放送の方式の一つ。フランス、東ヨーロッパや日ソ連、中東、アフリカなどで利用されています。
sRGB	各画像装置が表現する色をコンピューターのオペレーティングシステム (OS) やインターネットで簡単に扱うために規定された色空間に関する国際標準です。
SVGA	IBM PC/AT 互換機 (DOS/V 機) の信号で横 800 ドット×縦 600 ドットのものと呼ばれます。
S-ビデオ	ビデオの明るさ信号や色信号を分けて、高画質を追求する信号です。Y(輝度信号)C(色信号)の2つの独立した信号からできている映像をいいます。
VGA	IBM PC/AT 互換機 (DOS/V 機) の信号で横 640 ドット×縦 480 ドットのものと呼ばれます。
XGA	IBM PC/AT 互換機 (DOS/V 機) の信号で横 1,024 ドット×縦 768 ドットのものと呼ばれます。
インターレース	静止画解像度が同一の画像を放送するのに、必要な映像信号の帯域幅が、順次走査に比べて半分で済むことをいいます。
クールダウン	投写によって高温になっているランプを冷却する処理です。本機の電源を切ると自動的に行われます。クールダウン中は電源プラグを抜かないでください。クールダウンが正しく行われなくなるため、ランプや本機内部に高熱がこもったままとなり、ランプの寿命が短くなったり本機の故障の原因となります。クールダウン時間は、約 30 秒です。
コンポーネントビデオ	ビデオの明るさ信号や色信号を分けて、高画質を追求する信号です。ハイビジョンにおいて、Y(輝度信号)P _B 、P _R (色差信号)の3つの独立した信号からできている映像をいいます。
コンポジットビデオ	ビデオの明るさ信号や色信号を混合した、一般的な家庭用ビデオ信号 (NTSC▶方式) です。カラーバー信号の中の伝送用信号 Y(輝度信号)と C _B C _R (クロマ(色)信号)からできている映像を言います。
同期 (Sync.)	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないときれいな映像になりません。信号の位相(山のずれ)を合わせることを同期を合わせるといいます。同期が合っていないと投写映像にチラツキ、ぼやけ、横方向のノイズが出ます。
トラッキング	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないときれいな映像になりません。信号の周波数(山の数)を合わせることをトラッキングを合わせるといいます。トラッキングが合っていないと投写映像に幅広の縦の縞模様が出ます。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ (Hz) で設定します。

索引

アルファベット

o/1インディケータ	38,60
Analog-RGB	56
D4 VIDEO 端子	7,61, セットアップガイド
DVI-ビデオレベル	27,30
HDMI 端子	7,56,61, セットアップガイド
HDTV	55,56
INPUT A 端子	7,61, セットアップガイド
INPUT B 端子	7,61, セットアップガイド
LAMP/COVER インディケータ	38,60
RGB 調整	23,29
RGB ビデオ	55
SDTV	55,56
sRGB	17
S VIDEO 端子	7,61, セットアップガイド
S ビデオ	55
TEMP/FAN インディケータ	38,60
TRIGGER OUT 端子	61
VIDEO 端子	7,61, セットアップガイド

アイウエオ

ア

アイリス	16,26,28
アスペクト比	18
色合い	26,28
色の濃さ	26,28
インディケータ	38,60
動き検出	27,30
エアフィルターの取り外し	47
エアフィルターの掃除	47
映像ソース	27
液晶パネル調整	27,32,52
オーバースキャン	27,30
オーバーヒート	38
オプション品	54
オフセット	23,29
オンスクリーン表示設定	27,32

カ

外形寸法図	58
各部の名称と働き	59
「画質」メニュー	26,28
画質調整	26,28
画面調整	27,31
カラー調整	26,29
ガンマ	23,29
起動画面	27,32
クールダウン	9,39
グレースケール	14
クロスハッチ	14
黒レベル	22,26,28

ゲイン	23,29
言語	27,33
コントラスト	22,26,28
コンピューターとの接続	セットアップガイド
コンポーネントビデオ	55,61, セットアップガイド
コンポジットビデオ	55,61, セットアップガイド

サ

サブメニュー	26,34
自動調整	26,29
シャープネス	26,28
終了	9
仕様一覧	57
使用温度範囲	57
「情報」メニュー	27,33
初期化	26,27,29,33
「初期化」メニュー	27,33
白レベル	22,26,28
信号	27,30
ズーム字幕調整	27,31
ズーム調整	11
ズームモード	19,55,56
スクイーズ	19,55,56
スクイーズスルー	20,55,56
スクリーンサイズ	セットアップガイド
スマートズーム	20,55,56
スリープモード	27,31
スルー	20,55,56
接続端子	57,61
絶対色温度	23,26,29
設置方法	セットアップガイド
「設置」メニュー	27,30
設置モード	27,31, セットアップガイド
セットアップレベル	27,30
全初期化	27,33
操作ガイド	27,32

タ

対応解像度	55
待機モード	27,31
台形補正	13,27,31
テストパターン	14
電源コード	6,9
電源端子	6,61
電池カバー(リモコン)	セットアップガイド
電池の交換時期(リモコン)	セットアップガイド
電池のセット(リモコン)	セットアップガイド
天吊り	27,31,54, セットアップガイド
同期	26,28
同期情報	27
動作設定	27,31

投写距離	セットアップガイド
投写サイズ	セットアップガイド
トップメニュー	26,34
トラッキング	26,28
トリガーアウト	27,31

ナ

入力解像度	27
入力信号	27
入力信号選択	27,33
入力調整	26,28
入力レベル	26,28
ノイズリダクション	27,30

ハ

排気口	59
ハイド画面	27,32
肌色	23,26,29
ピクチャモード	17,26,29
ビデオ信号方式	27,33
表示位置	27,31
フォーカス調整	15
フルメニュー	26,34
プログレッシブ変換	27,30
フロントフット	12,59
ホームシアターシステムとの接続	セットアップガイド
保存温度範囲	57
本体操作パネル	60
本体の掃除	46

マ

メッセージ表示	27,32
メニュー	26,34
メニュー一覧	26
メニューカラー	27,32
メニュー表示位置	27,32
メモリー初期化	27,33
メモリー保存	24,26,29

ヤ

ユーザーログ	27,32
用語解説	63

ラ

ラインメニュー	26,36
ランプ点灯時間	27
ランプ点灯時間初期化	27,33,51
ランプの交換時期	48
ランプの交換方法	49
ランプカバー	49,59
ランプパワー	27,31
リフレッシュレート	27
リモコン	62, セットアップガイド
レンズキャップ	59
レンズシフト	12
レンズの掃除	46
ロック設定	27,32

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3) 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはヤマハおよびヤマハ指定の者（裏表紙参照）以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) ヤマハ純正品、およびヤマハ品質認定品以外のオプション品または消耗品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (7) 本書中のイラストと本体の形状は異なる場合があります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

電源高調波について

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

商標について

IBM、DOS/V は、International Business Machines Corp. の商標または登録商標です。

Macintosh、Mac、iMac は、Apple Computer, Inc. の登録商標です。

Windows は米国マイクロソフト社の商標です。

Pixelworks、DNX は Pixelworks 社の商標です。

DCDi[®] by Faroudja は Genesis Microchip Inc. の登録商標です。

YAMAHA はヤマハ株式会社の登録商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。
このページは、安全にご使用いただくために AV 製品全般について記載しております。

■ヤマハ AV 製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは

お客様ご相談センター

TEL (0570)01-1808 (ナビダイヤル)

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS からは下記番号におかけください。

TEL (053)460-3409

FAX (053)460-3489

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町 10-1

ご相談受付時間 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 18:00

(日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ヤマハ AV 製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西 1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512-6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町 5-7
仙台卸商共同配送センター 3F
TEL (022) 236-0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島 2 丁目 1 番 1 号
京浜トラックターミナル内 14 号棟 A-5F
TEL (03) 5762-2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町 200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465-6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町 2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター 3F
TEL (052) 652-2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下 1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877-5262

四国 〒760-0029 高松市丸亀町 8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822-3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前 2-11-4
TEL (092) 472-2134

●保証期間

お買い上げ日より 1 年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご希望により有料にて修理いたします。

●修理料金の仕組み

◆技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

◆部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

◆出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

●補修性能部品の最低保有期間

補修性能部品の最低保有期間は、製造打切り後 8 年です。補修性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品番、製造番号は AV 製品の背面もしくは底面に表示してあります。

●スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

●摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

●摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

愛情点検



★永年ご使用の AV 製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがある。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。



この取扱説明書は大豆油インクで印刷しています。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町 10-1



HOME CINEMA PROJECTOR
ホーム シネマ プロジェクター

セットアップガイド

LPX-510

1 リモコンを
お使いになる前に

- 電池のセット方法と交換時期
- リモコンの使い方と操作範囲

2 設置しよう

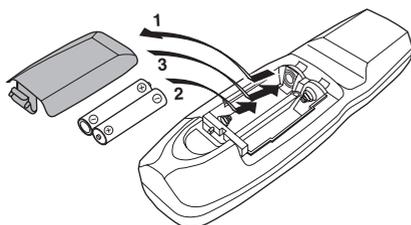
- スクリーンのサイズと設置距離
- いろいろな設置方法

3 ホームシアターシステムとの接続

4 コンピューターとの接続

電池のセット方法と交換時期

購入直後は、リモコンに電池はセットされていません。
まず、付属の乾電池をセットします。



- 1** 電池カバーを外します。
つまみを押さえながら、上へ持ち上げます。
- 2** 電池をセットします。
電池ホルダ内の(+)(-)の表示を確認し、電池の向きを間違えないようにセットします。
- 3** 電池カバーを取り付けます。
電池カバーのツメの部分を差し込みます。
カチッと音がするまでカバーを押し込みます。



注意

電池を取り扱う際は、『取扱説明書』の「安全上のご注意」を必ずお読みになり、電池取り扱い上の注意を確認してから行ってください。

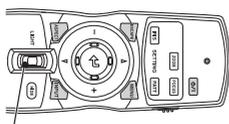
電池の交換時期

リモコンの反応が遅くなったり、操作できなくなった場合は、電池の寿命が考えられます。電池を新しいものと交換してください。

交換用の電池は、次のものをご用意ください。
単3乾電池×2本

リモコンの使い方と操作範囲

[LIGHT] (照光)スイッチについて



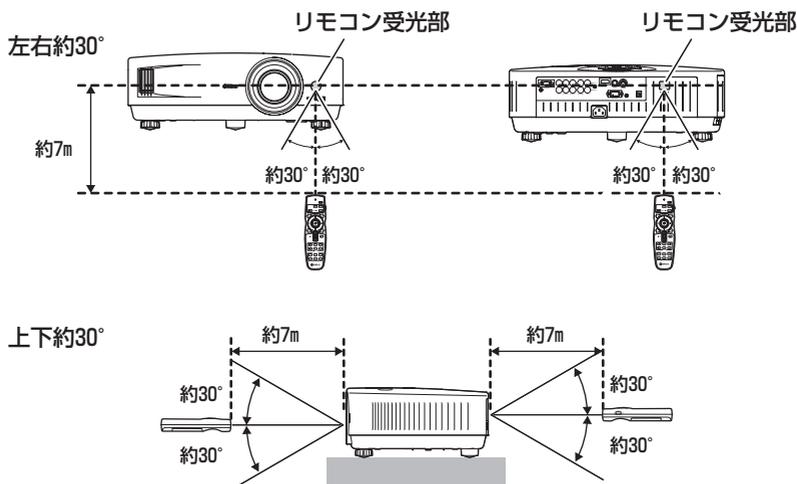
[LIGHT]スイッチ

[LIGHT]スイッチを上または下に倒すと、左図の色つきボタンが10秒間光ります。照光中に[LIGHT]スイッチを上または下に倒すと、さらに10秒間光ります。

リモコンで操作する場合は、次の範囲でお使いください。受光部との距離や角度が操作可能範囲を外れると、リモコン操作できません。

操作可能距離	操作可能範囲
約7m	上下左右約30°

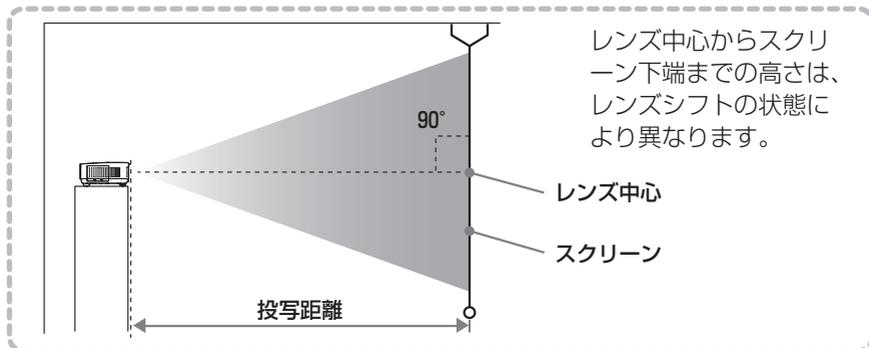
リモコンの発光部をプロジェクターのリモコン受光部に向けて操作します。



プロジェクターのリモコン受光部に直射日光や蛍光灯の光などが直接当たらないようにしてください。リモコンからの信号を受信できないことがあります。

スクリーンのサイズと設置距離

本機のレンズからスクリーンまでの投写距離により投写画面サイズが異なります。



下表を参考にして、スクリーンに映像が最適な大きさに映るように設置してください。値は目安です。

単位: cm

16:9 スクリーンサイズ		投写距離	
		最短(ズーム調整ワイド)	～ 最長(ズーム調整テレ)
30型	66×37	87	～ 133
40型	89×50	118	～ 179
60型	130×75	179	～ 270
70型	154×87	209	～ 316
80型	180×100	240	～ 361
100型	220×120	301	～ 452
200型	440×250	606	～ 909
300型	660×370	911	～ 1365

単位: cm

4:3 スクリーンサイズ		投写距離	
		最短(ズーム調整ワイド)	～ 最長(ズーム調整テレ)
30型	61×46	108	～ 164
40型	81×61	146	～ 220
60型	120×90	221	～ 332
70型	142×106	258	～ 388
80型	160×120	295	～ 443
100型	200×150	370	～ 555
200型	410×300	745	～ 1114
300型	610×460	1119	～ 1672



- 出荷時のレンズシフト上下位置は最下端になっていますので、調整する前にセンター位置にしてください。
- 本機のレンズは約1.5倍ズームです。最大拡大時は、最小時の約1.5倍のサイズで投写できます。
- 台形補正をすると、画面サイズは小さくなります。

いろいろな設置方法



本機の投写方法は、次の4種類があります。設置場所の条件に合わせて設置してください。

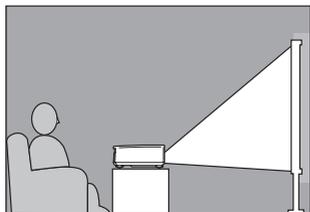
設置した後の電源投入や投写画面の調整などについては、別冊の『取扱説明書』をご覧ください。📖『取扱説明書』『基本的な操作』



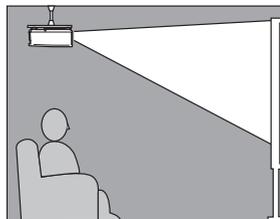
注意

設置にあたっては、『取扱説明書』の「安全上のご注意」を必ずお読みになり、設置上の注意を確認してから行ってください。

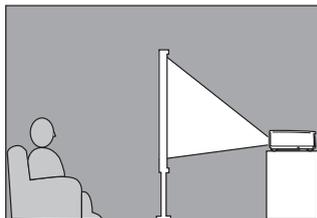
正面から投写する



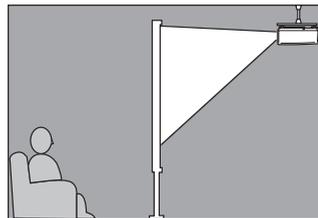
天吊りして正面から投写する



半透過性のスクリーンへ裏側から投写する



半透過性のスクリーンへ裏側から天吊りして投写する



※1 スクリーンより高い場所や低い場所、またはサイドから投写するときは、レンズシフトを使って映像を投写する位置を調整してください。📖『取扱説明書』『投写画面を調整しよう』→投写映像の位置調整(レンズシフト)

※2 天吊りやスクリーンの裏側から投写するときは、メニューの「設置モード」(「設置」→「画面調整」→「設置モード」)を設置の状態に合わせて変更してください。📖『取扱説明書』『設置』メニュー



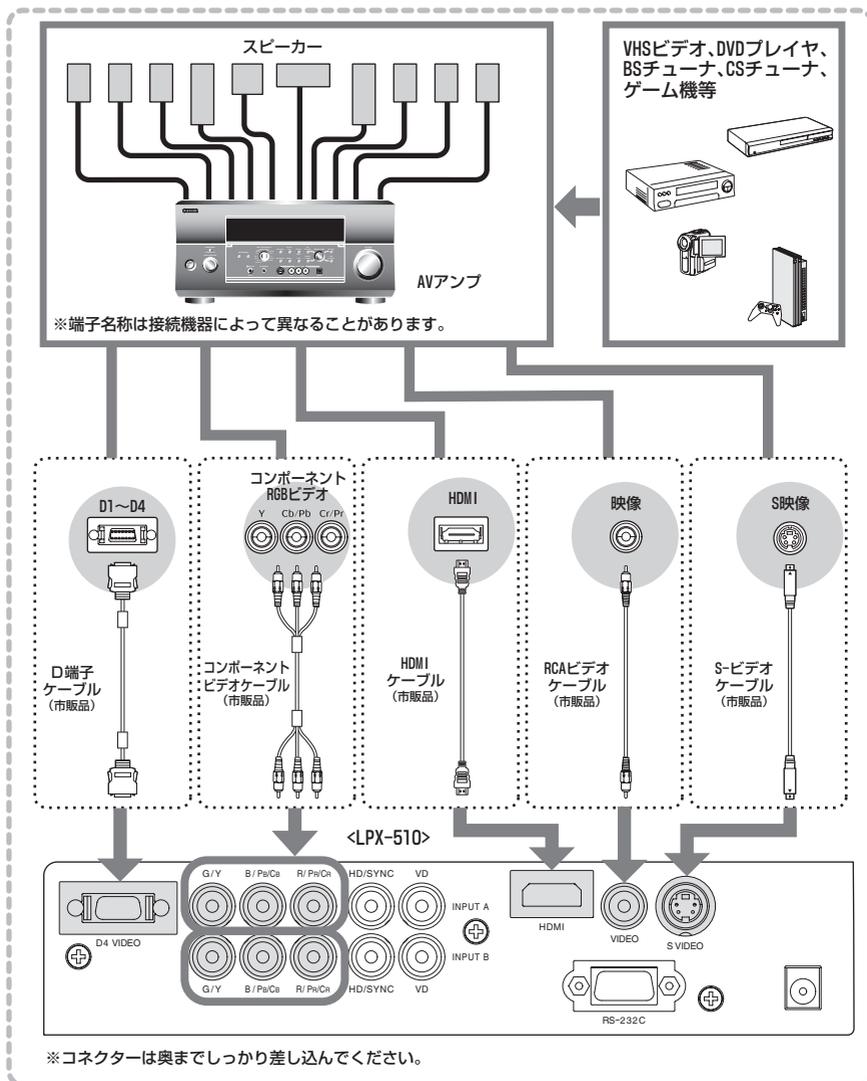
注意

- 壁際に設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をあけてください。
- お客さまによる天吊りなどの工事は一切行わないでください。(工事は技術と経験が必要です。お買上げ店または専門の工事業者にご依頼ください。)



注意

- 接続する前に本機とホームシアターシステムの電源を切ってください。
- 電源が入った状態で接続すると、故障の原因になります。ケーブルのコネクター形状と端子の形状を確認して接続してください。向きや形状が異なっているものを無理に押し込むと故障や機器の破損の原因になります。



各入力端子に別々の映像信号を同時に入力した場合、信号間の干渉により、ノイズが発生することがあります。このようなときには、使用していない映像機器側の電源を切るか接続を外して利用してください。



注意

- 接続する前に本機とコンピューターの電源を切ってください。電源が入った状態で接続すると、故障の原因になります。
- ケーブルのコネクター形状と端子の形状を確認して接続してください。向きや形状が異なっているものを無理に押し込むと故障や機器の破損の原因になります。

コンピューターによっては接続できないものや、接続できても投写できないものがあります。以下の、接続できるコンピューターの条件と照らし合わせて確認してください。

条件1：接続するコンピューターに映像信号の出力端子があること

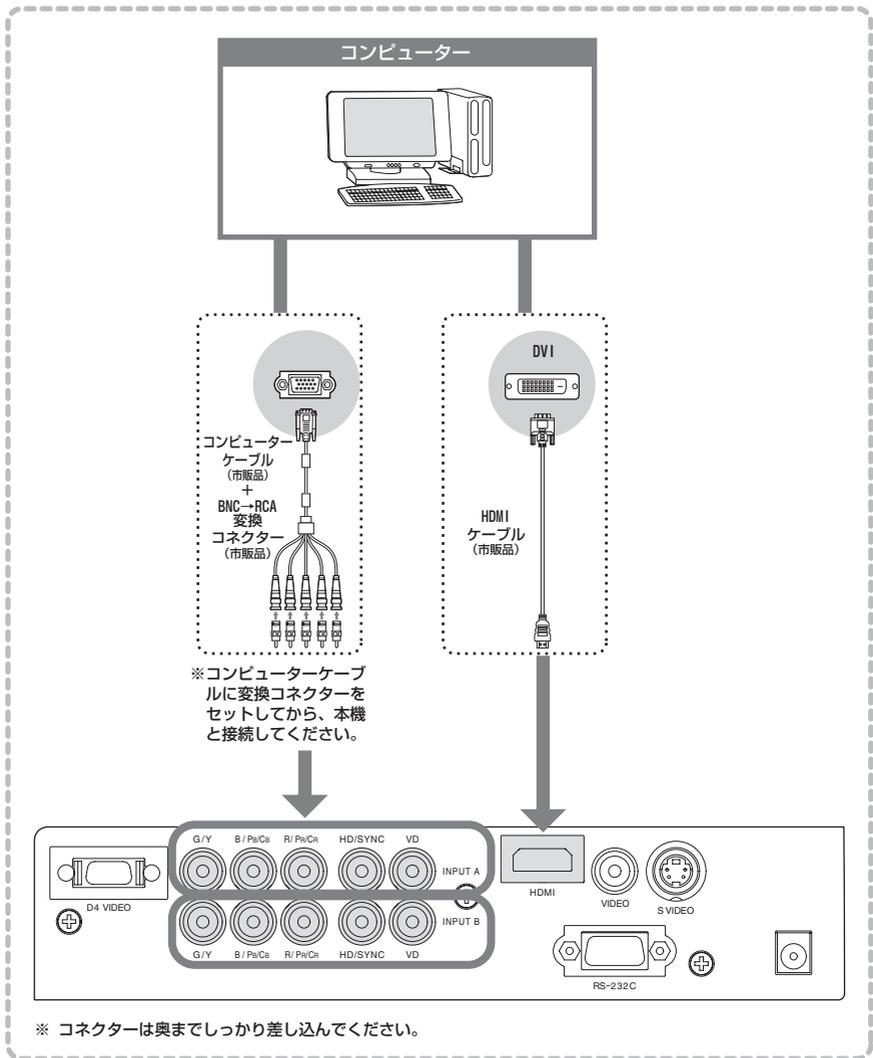
コンピューターに「RGB端子」「モニター端子」「ビデオ端子」などの映像信号を出力させる端子があることを確認してください。コンピューターとモニターが一体型のタイプやノートパソコンなどの場合は、接続できなかったり外部出力端子を別途購入する必要があるものがあります。詳しくは、コンピューターの取扱説明書の「外付けのモニターを接続する」などの項目をご覧ください。

条件2：接続するコンピューターの解像度と周波数が「対応解像度一覧」の範囲内であること  『取扱説明書』 『付録 対応解像度一覧』

コンピューターによっては出力解像度を変更できますので、コンピューターの取扱説明書をご覧ください。対応解像度一覧の範囲内の設定に変更してください。



- コンピューターの端子形状によっては、接続の際に市販のアダプター類などが必要になることがあります。詳しくはコンピューターの取扱説明書をご覧ください。
- Macintoshと接続するには、市販のアダプターが必要な場合があります。



このセットアップガイドは大豆油インクで印刷しています。